

厚生労働大臣 殿

国立大学法人浜松医科大学  
開設者名 (印)  
学長 今 野 弘 之

浜松医科大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 2 8 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山一丁目 2 0 番 1 号
氏 名	国立大学法人 浜松医科大学 学長 今野弘之

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

浜松医科大学医学部附属病院
---------------

3 所在の場所

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山一丁目 2 0 番 1 号	電話 (053) 435 - 2111
---------------------------------------	---------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 <input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1呼吸器内科	2消化器内科
5神経内科	6血液内科
9感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科
	3循環器内科
	7内分泌内科
	4腎臓内科
	8代謝内科
	11リウマチ科
診療実績	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名 1呼吸器外科                      2消化器外科                      3乳腺外科                      4心臓外科 5血管外科                      6心臓血管外科                      7内分泌外科                      8小児外科		
診療実績		

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科      2小児科      3整形外科      4脳神経外科      5皮膚科      6泌尿器科      7産婦人科 8産科      9婦人科      10眼科      11耳鼻咽喉科      12放射線科      13放射線診断科 14放射線治療科      15麻酔科      16救急科
---

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科      2矯正歯科      3口腔外科		
歯科の診療体制		

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。  
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 循環器科      2 神経科      3 心臓血管外科      4 リハビリテーション科      5 形成外科 6 病理診断科      7 小児外科
--

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
37 床	床	床	床	576 床	613 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

H29.10.1

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	347 人	101 人	378.3人	看 護 補 助 者	47 人	診療エックス線技師	0 人
歯 科 医 師	12 人	3 人	12.6 人	理 学 療 法 士	15 人	臨床検査技師	64 人
薬 剤 師	43 人	0 人	43 人	作 業 療 法 士	7 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0 人	視 能 訓 練 士	3 人	そ の 他	0 人
助 産 師	33 人	1 人	33.6 人	義 肢 装 具 士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	580 人	41 人	608.8人	臨 床 工 学 士	16 人	医療社会事業従事者	3 人
准 看 護 師	2 人	2 人	3.4 人	栄 養 士	0 人	その他の技術員	85 人
歯科衛生士	2 人	0 人	2 人	歯 科 技 工 士	0 人	事 務 職 員	121 人
管理栄養士	9 人	4 人	12.0人	診 療 放 射 線 技 師	33 人	その他の職員	16 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

H29.10.1

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	37 人	眼 科 専 門 医	8 人
外 科 専 門 医	40 人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	12 人
精 神 科 専 門 医	10 人	放 射 線 科 専 門 医	16 人
小 児 科 専 門 医	20 人	脳 神 経 外 科 専 門 医	7 人
皮 膚 科 専 門 医	6 人	整 形 外 科 専 門 医	18 人
泌 尿 器 科 専 門 医	6 人	麻 酔 科 専 門 医	23 人
産 婦 人 科 専 門 医	19 人	救 急 科 専 門 医	3 人
		合 計	225 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。  
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 ( 松山幸弘 ) 任命年月日 平成28年4月1日

平成26年4月1日から平成28年3月31日まで、医療安全管理室長として従事していた。  
 また、平成28年4月1日からは医療安全管理委員会委員長となっている。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	472.4 人	7.6 人	480.0 人
1日当たり平均外来患者数	1214.9 人	50.1 人	1265.0 人
1日当たり平均調剤数	入院666剤 外来43剤		
必要医師数	119.7人		
必要歯科医師数	3.4人		
必要薬剤師数	16人		
必要(准)看護師数	288人		

(注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。

2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。

4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要				
集中治療室	254.2m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋 コンクリート	病床数	12床	心電計	有	無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有	無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有	無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 316.5 m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 台		病床数	24床			
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 21 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名						
化学検査室	413.17m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋 コンクリート	(主な設備) 生化学・免疫全自動分析装置・全自動血液検査システム				
細菌検査室	174.70m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋 コンクリート	(主な設備) 自動細菌同定感受性装置・自動血液培養装置				
病理検査室	149.80m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋 コンクリート	(主な設備) 自動固定包埋装置・パラフィン包埋ブロック作製装置・マイクローム				
病理解剖室	46.00m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋 コンクリート	(主な設備) 排水滅菌システム・固定液作製装置・解剖台				
研究室	436.80m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋 コンクリート	(主な設備) 臨床情報検索データベースシステム				
講義室	255.10m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋 コンクリート	室数	1室	収容定員	170人	
図書室	61.20m <sup>2</sup>	鉄骨鉄筋 コンクリート	室数	1室	蔵書数	6,200冊程度	

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	103.4%	逆紹介率	54.0%
算出根拠	A: 紹介患者の数	12,572 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	7,988 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	2,722 人	
	D: 初診の患者の数	14,785 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
小島 崇宏	大阪 A & M 法律事務所	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
津田 紘	なし		医療を受ける者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
大磯 義一郎	浜松医科大学 医学部		法律に関する識見を有する者	<input checked="" type="radio"/> 有・無	1
				有・無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。  
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者  
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)  
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
委員の選定理由の公表の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
公表の方法 大学ホームページ	



(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん(エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。)	0人
パクリタキセル腹腔内投与及び静脈内投与並びにS-1内服併用療法 腹膜播種又は進行性胃がん(腹水細胞診又は腹腔洗浄細胞診により遊離がん細胞を認めるものに限る。)	0人
S-1内服投与、オキサリプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	0人
オクトレオチド皮下注射療法 先天性高インスリン血症(生後二週以上十二月未満の患者に係るものであって、ジアゾキサイドの経口投与では、その治療に係る効果が認められないものに限る。)	0人
術前のTS-1内服投与、パクリタキセル静脈内及び腹腔内投与並びに術後のパクリタキセル静脈内及び腹腔内投与の併用療法 根治切除が可能な漿膜浸潤を伴う胃がん(洗浄細胞診により、がん細胞の存在が	0人
FDGを用いたポジトロン断層撮影によるアルツハイマー病の診断 アルツハイマー病	2人
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法	0人
内視鏡下手術用ロボットを用いた腹腔鏡下胃切除術 根治切除が可能な胃がん(ステージⅠ又はⅡであって、内視鏡による検査の所見で内視鏡的胃粘膜切除術の対象とならないと判断されたものに限る。)	1人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	該当なし	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名	該当なし	取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	41
2	筋萎縮性側索硬化症	8	57	特発性拡張型心筋症	39
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	7
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	4	60	再生不良性貧血	35
6	パーキンソン病	129	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7	大脳皮質基底核変性症	2	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	43
9	神経有棘赤血球症	1	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トウス病	0	65	原発性免疫不全症候群	4
11	重症筋無力症	48	66	IgA腎症	8
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	11
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	31	68	黄色靱帯骨化症	15
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	7	69	後縦靱帯骨化症	64
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	7
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	49
17	多系統萎縮症	14	72	下垂体性ADH分泌異常症	9
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	22	73	下垂体性TSH分泌亢進症	3
19	ライソゾーム病	5	74	下垂体性PRL分泌亢進症	42
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	15
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	9
22	もやもや病	13	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	65
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	133
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	7	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	131
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	32
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	11
32	自己食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	1
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	10
34	神経線維腫症	13	89	リンパ管筋腫症	3
35	天疱瘡	27	90	網膜色素変性症	21
36	表皮水疱症	0	91	バッド・キアリ症候群	2
37	膿疱性乾癬(汎発型)	15	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	12
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	16	95	自己免疫性肝炎	2
41	巨細胞性動脈炎	4	96	クローン病	129
42	結節性多発動脈炎	11	97	潰瘍性大腸炎	157
43	顕微鏡的多発血管炎	11	98	好酸球性消化管疾患	1
44	多発血管炎性肉芽腫症	8	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	1	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	1
46	悪性関節リウマチ	23	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	6	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	4	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	168	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	91	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	78	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	18	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	7	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	2	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	6
113	筋ジストロフィー	4	163	特発性後天性全身性無汗症	4
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	4
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	1
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	3
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	1	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	1	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

## 4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	5	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	10	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	4
224	紫斑病性腎炎	2	272	進行性骨化性線維異形成症	2
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	3	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	3	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	2
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	1
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	4

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナパン病		319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症		320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん		321	非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群		322	$\beta$ -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症		323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症		324	メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症		325	遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症		326	大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)／L MX1B関連腎症		327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症		328	前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症		329	無虹彩症	
318	シトリン欠損症		330	先天性気管狭窄症	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・総合評価加算
・歯科外来診療環境体制加算	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料(7対1)	・病棟薬剤業務実施加算2
・特定機能病院入院基本料(13対1)	・データ提出加算2
・臨床研修病院入院診療加算	・退院支援加算2
・救急医療管理加算	・後発医薬品使用体制加算1
・妊産婦緊急搬送入院加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算1	・呼吸ケアチーム加算
・医師事務作業補助体制加算(100対1)	・特定集中治療室管理料2
・急性期看護補助体制加算(50対1)	・新生児特定集中治療室管理料1
・看護職員夜間配置加算2	・新生児治療回復室入院医療管理料
・看護補助加算2(50対1)(精神)	・小児入院医療管理料2
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・がん拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・高度難聴指導管理料	・検体検査管理加算(IV)
・糖尿病合併症管理料	・遺伝カウンセリング加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・国際標準検査管理加算
・がん患者指導管理料1	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん患者指導管理料2	・植込型心電図検査
・がん患者指導管理料3	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・造血幹細胞移植後患者指導管理料	・胎児心エコー法
・糖尿病透析予防指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・夜間休日救急搬送医学管理料	・人工膵臓検査
・外来放射線照射診療料	・皮下連続式グルコース測定
・ニコチン依存症管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・開放型病院共同指導料	・神経学的検査
・がん治療連携計画策定料	・補聴器適合検査
・がん治療連携管理料	・ロービジョン検査判断料
・肝炎インターフェロン治療計画料	・コンタクトレンズ検査料1
・薬剤管理指導料	・小児食物アレルギー負荷検査
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・内服・点滴誘発試験
・医療機器安全管理料1	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)
・医療機器安全管理料2	・CT透視下気管支鏡検査加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・画像診断管理加算1
・歯科治療総合医療管理料	・画像診断管理加算2
・持続血糖測定器加算	・ポジトロン断層撮影又はポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・造血器腫瘍遺伝子検査	・CT撮影及びMRI撮影
・遺伝学的検査	・冠動脈CT撮影加算
・HPV核酸検出	・大腸CT撮影加算

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓MRI撮影加算	・一酸化窒素吸入療法
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・外来化学療法加算1	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・無菌製剤処理料	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術))
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・腫瘍脊椎骨全摘術
・廃用症候群リハビリテーション料(I)	・脳腫瘍覚醒下マッピング加算
・運動器リハビリテーション料(I)	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・がん患者リハビリテーション料	・羊膜移植術
・集団コミュニケーション療法料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・歯科口腔リハビリテーション料2	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・児童思春期精神科専門管理加算	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・認知療法・認知行動療法2	・上顎骨形成術(骨移動に伴う場合に限る。)(歯科診療の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療の診療に係るものに限る。)
・精神科作業療法	・乳がんセンチネルリンパ節加算1、乳がんセンチネルリンパ節加算2
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
・人口臍臓療法	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	・経皮的冠動脈形成術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1	・経皮的冠動脈ステント留置術
・歯科点数表第2章第8部処置の通則の6に掲げる処置の休日加算1	・経カテーテル大動脈弁置換術
・歯科点数表第2章第8部処置の通則の6に掲げる処置の時間外加算1	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・歯科点数表第2章第8部処置の通則の6に掲げる処置の深夜加算1	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術
・透析液水質確保加算2	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・輸血適正使用加算
・補助人工心臓	・貯血式自己血輸血管理体制加算
・経皮的動脈遮断術	・自己生体組織接着剤作成術
・ダメージコントロール手術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・胆管悪性腫瘍手術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・体外衝撃波胆石破碎術	・歯周組織再生誘導手術
・腹腔鏡下肝切除術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・体外衝撃波膀胱石破碎術	・麻酔管理料(I)
・腹腔鏡下腓骨尾部腫瘍切除術	・麻酔管理料(II)
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・放射線治療専任加算
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・外来放射線治療加算
・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・高エネルギー放射線治療
・同種死体腎移植術	・1回線量増加加算
・生体腎移植術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・膀胱水圧拡張術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算・その他のもの
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・直線加速器による放射線治療
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1	・保険医療機関間の連携による病理診断
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1	・病理診断管理加算2
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1	・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
・歯科点数表第2章第9部手術の通則の9に掲げる手術の休日加算1	・テレパソロジーによる術中迅速細胞診
・歯科点数表第2章第9部手術の通則の9に掲げる手術の時間外加算1	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・歯科点数表第2章第9部手術の通則の9に掲げる手術の深夜加算1	・CAD/CAM冠
・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む)	・
・輸血管理料 I	・



(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
光イメージングによる腫瘍血管・低酸素を標的とした抗癌剤反応性バイオマーカーの開発	阪原 晴海	放射線医学	2,600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
薬剤送達に対するリンパ管の役割:転写因子FOXC2に着目したリンパ管機能解析	平川 聡史	皮膚科学	5,119,273	補委 独立行政法人日本学術振興会
二次性リンパ浮腫動物モデルの作製と治療法の開発	海野 直樹	外科学第二	3,800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
科学的臨床検査を目指した、標準化未踏である免疫学的検査データの標準化への挑戦	前川 真人	臨床検査医学	4,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
乳幼児期早期の発達遅滞に関する、認知機能評価と脳MRIによる大規模追跡研究	武井 教使	子どものこころの発達研究センター	3,752,693	補委 独立行政法人日本学術振興会
胎生期低栄養が小胞体ストレス応答を介して成人期の脂肪蓄積リスクとなる機序の解析	伊東 宏晃	周産母子センター	6,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
血中循環腫瘍細胞の新規検出方法開発と臨床応用	今野 弘之	外科学第二	4,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
糖鎖模倣ペプチドIF7による腫瘍標的抗癌剤の研究開発	杉原 一廣	産科婦人科	3,700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
血管浮腫の観点からみた羊水寒栓症の診断、治療、予知・予防に関する研究	金山 尚裕	産科婦人科	3,900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
自閉スペクトラム症と注意欠如・多動症に共通する中間表現型と発症モデルの特定	土屋 賢治	子どものこころの発達研究センター	7,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
HD-DOTとMRIを用いた社会脳における感情の生成・制御の神経メカニズム解明	星 詳子	生体医用光学研究室	2,700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
DNA修復機構を標的とする分子標的画像法の開発—放射線治療効果予測を目指して—	間賀田 泰寛	分子病態イメージング	6,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
IL-22産生を介した小腸粘膜防御機構の制御:IELとIECのクロストーク	杉本 健	内科学第一	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
高齢者の術前運動療法の周術期心筋保護と術後回復促進のメカニズムに関する研究	加藤 孝澄	麻酔・蘇生学	400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
ハイリスク出生コホート研究に基づく自閉症スペクトラム障害の超早期兆候の特定	豊田 志保	精神科神経科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
がん悪液質の病態時におけるオピオイドによる鎮痛効果、有害作用の個人差要因の解明	内藤 隆文	薬剤部	1,200,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
13C-ナプロキセン呼吸試験によるNSAID潰瘍リスク評価と個別化療法の確立	古田 隆久	臨床研究管理センター	900,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
$\omega$ -3系多価不飽和脂肪酸による心保護作用についての研究	佐藤 洋	第三内科	600,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
気管支喘息発作時の気道炎症増悪における獲得免疫と自然免疫のクロストークの解明	藤澤 朋幸	第二内科	1,000,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
神経細胞における鉄排出システムの補完作用と亜鉛による調節効果の解析	宮嶋 裕明	第一内科	700,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
甲状腺ホルモンとその受容体による転写調節における転写伸長因子の関わり	松下 明生	第二内科	1,400,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
母乳栄養による肥満発症抑制機序:脂肪細胞と腸管内分泌細胞への複合作用の解明	藤澤 泰子	小児科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
Molecular Basis of Familial Glucocorticoid Deficiency	山口 理恵	小児科学	800,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
円形脱毛症におけるpDCを中心とした新たな病態メカニズムの解明	伊藤 泰介	皮膚科	1,300,000	補委 独立行政法人日本学術振興会
定量位相顕微鏡を用いた新規CTC(血中循環腫瘍細胞)検出器の開発	川端 俊貴	感染対策室	1,100,000	補委 独立行政法人日本学術振興会

大腸癌肝転移における脂肪酸代謝の役割と新たな肝転移制御戦略の確立	山本 真義	第二外科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
CACの発癌過程におけるSirtuinの関与	倉地 清隆	外科学第二	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
外科切除標本灌流ファージディスプレイ法による腫瘍特異的血管内リガンドの探索	佐藤 正範	第一外科	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
浮腫におけるPhlebolymphelemaの病態解明	山本 尚人	第二外科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腹部大動脈瘤の瘤壁における刷り応力と血管新生、リンパ管新生との関連について	犬塚 和徳	第二外科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
パーキンソン病-脳深部刺激モデルラットでのPETによるドパミン放出の研究	杉山 憲嗣	脳神経外科学	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
短時間作用性β遮断薬の脳の酸化への影響	栗田 忠代士	手術部	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腎癌のFABP7機能解明とトリグセリド代謝の検討ならびに発癌予防に向けた探索	大園 誠一郎	泌尿器科学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
病理組織学的検討に基づいた羊水塞栓症の診断法と新規治療薬の開発	田村 直顕	産婦人科学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
プロテアーゼ活性化受容体-細胞内シグナル伝達系を介した絨毛細胞障害修復機構の検討	杉村 基	産婦人科家庭医療学	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌における長鎖遺伝子間ncRNAのエピジェネティック制御について	三澤 清	耳鼻咽喉科	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌におけるTet-assist Bisulfite 法による脱メチル化解析	大和谷 崇	耳鼻咽喉科	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
次世代シーケンサーを用いたわが国の網膜色素変性患者の遺伝子診断システムの構築	堀田 喜裕	眼科学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
重症心身障がい児の胃食道逆流症の病因としての上部消化管motility異常の解明	川原 央好	小児外科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
GNAS関連インプリンティング疾患の包括的分子遺伝学的解析と疾患発症機序の解明	佐野 伸一郎	小児科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌患者の放射線治療による嚥下と筋力の悪化をリハビリ介入で予防できるか	安田 千里	リハビリテーション部	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
うつ病に対する集団行動活性化療法の効果検討とプログラム開発	望月 洋介	精神医学	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
がん患者における病期に基づくオピオイドの鎮痛効果および有害作用の変動予測法の構築	川上 純一	薬剤部	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
糖尿病心筋における細胞内レニン系の細胞保護作用の検討	加藤 秀樹	内科学第三	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
生分解性ナノ粒子を用いた結核感染症に対する新規樹状細胞ワクチンの開発	須田 隆文	内科学第二	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肺線維症合併肺癌に対する新規免疫療法の開発	中村 祐太郎	内科学第二	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
敗血症性急性腎障害モデルにおける好中球細胞外トラップの役割の解析	安田 日出夫	内科学第一	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
敗血症性急性腎障害におけるTLR9 - IL-17経路の役割の検討	辻 孝之	内科学第一	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
甲状腺ホルモンによる甲状腺刺激ホルモン放出ホルモンへの負の調節機構	佐々木 茂和	内科学第二	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
川崎病発症後における早期動脈硬化リスク因子の探索	石川 貴充	小児科学	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
うつ病に対するECTの改善効果:MRSとPETによるエネルギー代謝の検討	竹林 淳和	精神医学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳に発現する免疫分子MHCの注意欠如・多動性障害への関与	中原 大一郎	精神医学	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
質量顕微鏡を用いた乳癌組織の質的解析による治療効果予測因子、予後因子の探索	小倉 廣之	外科学第一	400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

高解像度マノトリーを用いた食道癌術後嚥下機能評価	神谷 欣志	外科学第二	400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ケモカインネットワークを標的とした食道癌新規悪性度診断と治療法の開発	竹内 裕也	外科学第二	503,306	補委	独立行政法人日本学術振興会
miRNA発現変化を介した消化器悪性腫瘍肝転移機構の解析	菊池 寛利	外科学第二	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
パーキンソン氏病サルモデルの粗大運動と微細運動に対するDBSのPETを用いた研究	浅川 哲也	精神医学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
核磁気共鳴エラストグラフィによる頭蓋内腫瘍の弾性率の解析	酒井 直人	脳神経外科	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
コレシストキニンB受容体蛋白による軸索伸長効果	長谷川 智彦	整形外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腎細胞癌に対するtamsirolimusおよびcushirsen併用療法の検討	三宅 秀明	泌尿器科学	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
精子運動の活性化と受精率の改善を目指したトランスレシヨナル・リサーチ	柴田 俊章	産科婦人科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
内診指接着型胎児オキシメーターを用いた新規胎児モニタリング法の開発	内田 季之	産科婦人科	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腸内細菌叢制御による脳動脈瘤破裂予防の研究	牧野 洋	麻酔・蘇生学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
出血性ショック後の臓器障害に与える一酸化窒素吸入の効果に関する研究	御室 総一郎	集中治療部	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
染色体バンド境界に着目した神経可塑性の遺伝学的分子基盤の解明	渡邊 良久	臨床検査医学	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
赤血球不規則抗体陽性例に対する抗原陽性輸血の実態と溶血性副作用解析システムの構築	竹下 明裕	輸血・細胞治療部	1,800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
凍結組織切片を用いたMALDI質量分析による薬毒物の直接定量	南方 かよ子	法医学	2,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
マイクロサテライト不安定性SGO1変異による大腸がんの染色体不安定性誘導効果	岩泉 守哉	内科学第一	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
糖尿病性心筋症における心筋インスリン抵抗性と左室拡張障害の関連性	早乙女 雅夫	第三内科	2,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
喘息肺における濾胞性ヘルパーT細胞の分化誘導の仕組みと喘息病態での役割の解明	古橋 一樹	内科学第二	1,800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ex vivo培養増殖で得た皮膚浸潤T細胞による薬疹の原因薬剤同定法の確立	藤山 俊晴	皮膚科	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
統合失調症の脳内α7ニコチン様アセチルコリン受容体:PETによる研究	和久田 智靖	精神医学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
神経性無食欲症の脳内α7ニコチン受容体の症候学的検討	横倉 正倫	精神医学	2,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
新規リンパシチングラフィックパラメーターに基づく非侵襲的皮膚癌転移診断法の開発	藤原 雅雄	形成外科	1,900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
門脈塞栓術後肝再生への脂質の関与	坂口 孝宣	外科学第二	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
臨床応用可能な経食道運動誘発電位の確立	椎谷 紀彦	外科学第一	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
非ウイルス的遺伝子導入法による自殺遺伝子幹細胞療法の開発とグリオーマ治療への応用	鮫島 哲朗	脳神経外科	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳腫瘍に対する間葉系幹細胞を用いた治療研究	天野 慎士	脳神経外科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
セロトニン神経に着目したパーキンソン病での視床下核刺激の歩行・精神機能への効果	野崎 孝雄	脳神経外科	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
Imaging Mass Spectrometryによる神経細胞膜の評価	小林 祥	整形外科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
光テクノロジーを利用した血液ブドウ糖濃度の連続測定法の開発	土井 松幸	集中治療部	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

頭頸部癌におけるエピゲノムプログラミング調節機構の解明	峯田 周幸	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
斜視手術が眼球に与える影響に関する研究	佐藤 美保	眼科学	1,900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
テラーメード医療に向けた先天性視覚障害患者に対する診断プログラム開発と臨床応用	細野 克博	眼科学	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
超小型近赤外線分光計測装置を用いた救急室と災害現場での傷病者評価	齊藤 岳児	救急部	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
脳賦活リハビリテーションに貢献する光イメージングを用いた認知機能定量法の開発	大星 有美	生体機能イメージング研究室	500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ユビキチンリガーゼSCRAPPERが調節するシナプス蛋白質の超解像イメージング	矢尾 育子	光イメージング研究室	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
標的/酵素特異性ハイブリッド型近赤外蛍光イメージング製剤の開発とがん診断への応用	清水 広介	分子病態イメージング	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
神経腫瘍の悪性転化原因変異のエキソーム解析と血中分泌小胞分析による鑑別法の開発	蓑島 伸生	光ゲノム医学研究室	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
マウス蝸牛組織における自然免疫応答の検討	中西 啓	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
HSVtk遺伝子導入Muse細胞の生体モニタリングと安全性の検証	山崎 友裕	脳神経外科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
抗てんかん薬ラモトリギンの代謝に及ぼすグルクロン酸抱合阻害剤の影響の解明	大澤 隆志	薬剤部	570,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
高齢パーキンソン病患者におけるロチゴチン経皮吸収剤の薬物動態の個人差要因の解明	田中 紀章	薬剤部	570,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ポリコロナールの主代謝物Nオキシド体の曝露による皮膚障害リスク上昇の要因解析	山田 尚広	薬剤部	570,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
がん患者におけるフェンタニルの鎮痛効果と血中サイトカイン濃度との関係解明	石田 卓也	薬剤部	570,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
神経障害性疼痛患者におけるプレガバリンの血中動態の個人差要因の解明	吉川 望美	薬剤部	570,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
易感染症患者におけるDPP-4阻害薬服用による感染症罹患リスク評価	丸山 修治	薬剤部	570,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
抗菌薬存在下での細菌発育の差をLAMP法で診る、迅速な薬剤感受性の検査法の開発	太田 悠介	検査部	570,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
モチベーションの脳機能イメージング	尾内 康臣	生体機能イメージング	15,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
アレルギー性疾患の先制医療を目指して:アトピー性皮膚炎における鼻腔常在菌叢の意義	前川 真人	臨床検査医学	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
超高速三次元計測小型カメラによる高精度放射線治療位置認識システムの開発	中村 和正	放射線腫瘍学	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
生殖補助医療が胎盤の構造・機能の変化を介して分娩時出血量に及ぼす影響の解析	谷口 千津子	産科婦人科	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
EMDRIによる外傷後ストレス障害の治療機転に関する脳画像研究	井上 淳	精神医学	500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ナノスーツ法を用いた癌研究:電子顕微鏡で生きたまま細胞を観察する新しい技術	平川 聡史	皮膚科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
ミクログリア活性化に対する光療法の開発ー動物モデルを用いた基礎的研究ー	高橋 太郎	精神医学	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
幻聴の病態発生に関する脳画像研究	松尾 香弥子	精神医学	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
婦人科癌の血清診断法の開発研究	杉原 一廣	産科婦人科	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
強迫性障害のディメンションに関する学校調査	高貝 就	児童青年期精神医学	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
不注意症状の計測と臨床診断:注視点検出技術の新たな応用	土屋 賢治	子どものこころの発達研究センター	1,900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会

学校調査に基づいたじめ被害生徒のメンタルヘルス—自殺念慮を中心に—	武井 教使	子どものこころの発達研究センター	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
腹部大動脈瘤術後2型エンドリクに対する血行動態学的予後予測因子の探索的研究	海野 直樹	外科学第二	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胎盤病理所見と乳幼時期の発育・発達の比較検討—成人病発症予知マーカーの探索—	伊東 宏晃	周産母子センター	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
精神疾患の創薬に貢献する保護・傷害型ミトコンドリア活性のin vivo画像法の開発	尾内 康臣	生体機能イメージング研究室	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
生体内金属関連反応の画像化を目指した金属核種を必要としない低分子PET薬剤の開発	間賀田 泰寛	分子病態イメージング研究室	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
電磁波による脳血流イメージング法の開発	山本 清二	イノベーション光医学研究室	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
経頭蓋交直流電気刺激による認知症自己認識システムへの促進効果とメカニズム	小俣 圭	生体機能イメージング研究室	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
前頭—頭頂葉機能インバランス仮説に基づく自閉性障害の脳機能解明と評価指標作成	涌澤 圭介	子どものこころの発達研究センター	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
質量顕微鏡を用いた肝臓微小環境における脂質合成・代謝経路の解析	森田 剛文	第二外科	300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
不規則抗体が関与する遅発性溶血性輸血副作用の解明—前方向多施設共同研究の推進—	藤原 晴美	輸血・細胞治療部	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
原発性胆汁性肝硬変症における転写因子Nr2の機能解析と治療基盤の創出	川田 一仁	第二内科	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
H19およびmiR-675による頭頸部癌早期発見法の確立	岡村 純	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
乳児期の食物特異的IgE,IgG4IgAのクラススイッチと食物アレルギーの発症	夏目 統	小児科学	500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自閉症スペクトラム者に対する司法面接法の開発に向けた実証研究	上宮 愛	子どものこころの発達研究センター	800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自閉症者における認知—感情ネットワークの特異性に関する機能的脳画像研究	伊藤 大幸	子どものこころの発達研究センター	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
一般小中学生における性別違和の実態把握と心理社会的不適応の関連	浜田 恵	子どものこころの発達研究センター	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
尿酸生成酵素阻害薬の最適投与設計法の確立	見野 靖晃	薬剤部	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
医療情報データベースを用いたARBの医薬品相互作用の探索法開発およびその機序解明	堀 雄史	薬剤部	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
幼児期における自己制御機能の発達とその規定因に関する研究	浅野 良輔	子どものこころの発達研究センター	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
中毒例のヒト臓器・体液からの危険ドラッグ成分抽出と標準添加法による高感度機器分析	長谷川 弘太郎	法医学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
マイクロアレイによる網羅的解析を用いた白血病細胞の薬剤感受性の解明	坂口 公祥	小児科学	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
乳がん病変の時間分解分光装置による定量的測定	芳澤 暢子	放射線医学	1,100,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
クローン病腸管粘膜におけるLPCAT3の機能解析	原田 岳	外科学第二	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
先天白内障の病態解明のための3次元生体測定とデータベース構築	立花 信貴	眼科学	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
線溶系の制御による脳動脈瘤発生および破裂予防法の検討	木村 哲朗	手術部	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
シルバーラッセル症候群発症機序の解明と(エピ)遺伝子型—表現型解析	加藤 芙弥子	小児科学	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
二次性リンパ浮腫の病態解明及び治療法の開発	佐野 真規	外科学第二	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
自閉症スペクトラム障害児の包括的症状評価と適応行動に基づく介入プログラムの開発	大隅 香苗	児童青年期精神医学	0	補委	独立行政法人日本学術振興会

脳可塑性への働きかけに基づく言語障害リハビリテーション	岩淵 俊樹	子どものこころの発達研究センター	1,668,289	補委	独立行政法人日本学術振興会
発達障害のある外国籍児童生徒の保護者へのペアレント・トレーニングプログラム開発	野村 和代	子どものこころの発達研究センター	600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
術後患者におけるデクスメタミジンの体内動態および臨床効果の個人差要因の解明	八木 達也	薬剤部	1,700,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
DPP-4阻害薬による急性腎障害後線維化軽減効果の検討	岩倉 孝政	内科学第一	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
肥満による重症喘息/難治性喘息の新規治療法の開発	鈴木 勇三	第二内科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
間質性肺疾患合併多発性筋炎/皮膚筋炎における筋炎特異的抗体とバイオマーカーの研究	穂積 宏尚	第二内科	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
抗真菌剤ポリコゾールによる芳香族炭化水素受容体を介した皮膚癌進展機序の解明	池谷 茂樹	皮膚科学	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
表皮角化細胞の分化およびバリア機能因子としてのsuprabasin	青島 正浩	皮膚科	1,500,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
水疱性類天疱瘡における水疱内好塩基球とTSLPとの相互作用	龍野 一樹	皮膚科学	1,400,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
うつ病モデルにおける脳糖代謝異常のメカニズム解明	亀野 陽亮	精神科神経科	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
人工心臓によるレミフェンタニルの蛋白結合率変化による薬物動態学的変化	植田 広	周産母子センター	1,800,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
CD8陽性リンパ球による絨毛炎の病態解析	古田 直美	周産母子センター	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
胎生期低栄養後の肥満発症リスクの低減を目指した新たな介入方法の開発	幸村 友季子	産婦人科	900,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
頭頸部癌におけるリキッドバイオプシーによるエビデンス解析	遠藤 志織	耳鼻咽喉科	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
36℃低体温法の心筋虚血再灌流障害保護作用:水素によるさらなるROSの制御	川島 信吾	麻酔・蘇生学	1,300,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
出生コホート研究を用いたADHDの早期兆候の特定	中原 竜治	子どものこころの発達研究センター	1,600,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
裂手裂足症を招く新規疾患成立機序の解明	永田 絵子	臨床研究管理センター	1,000,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
手術療法の標準化に向けた消化器外科専門医育成に関する研究	今野 弘之	-	9,360,000	補委	厚生労働省科学研究費
認知症発症リスクの減少および介護者等の負担軽減を目指したAge-Friendly Citiesの創生に関する研究	尾島 俊之	健康社会医学	4,308,000	補委	厚生労働省科学研究費
性分化・性成熟疾患群における診療ガイドラインの作成と普及	緒方 勤	小児科学	4,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
電子カルテ情報を用いた証拠性のある臨床研究手法に関する研究	木村 通男	医療情報部	5,385,000	補委	厚生労働省科学研究費
内視鏡および顕微鏡による低侵襲手術を支援する3D超音波診断装置の実用化開発と臨床研究	山本 清二	イノベーション光医学研究室	42,376,400	補委	日本医療研究開発機構
医薬品等の市販後安全対策のための医療情報データベースの利用活用方法に関する薬剤疫学研究	川上 純一	薬剤部	7,938,531	補委	日本医療研究開発機構
効率的な治験の実施に資するGCPの運用等に関する研究	渡邊 裕司	臨床薬理学	2,307,696	補委	日本医療研究開発機構
成育希少疾患の症例登録と遺伝学的診断に関する研究	緒方 勤	小児科学講座	350,000	補委	国立研究開発法人国立がん研究センター
子宮内膜症に対するペプチド治療薬の探索-分担1	杉原 一廣	産婦人科学講座	5,783,910	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
治験の実施に関する研究[g-CSF]	松山 幸弘	整形外科科学講座	980,000	補委	公益社団法人日本医師会
注視点検出技術を活用した発達障害がい診断システムの開発	土屋 賢治	子どものこころの発達研究センター	7,800,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構

難治性神経障害性疼痛に対する在宅治療用反復経頭蓋磁気刺激装置の医師主導治験	杉山 憲嗣	脳神経外科学講座	5,787,600	補委	国立大学法人大阪大学
インドシアニングリーンを用いたリンパ管蛍光造影法の四肢リンパ浮腫診断の有効性の検証	海野 直樹	外科学第二講座	4,300,000	補委	公益社団法人日本医師会治験促進センター
新規オキシトシン製剤を用いた自閉スペクトラム症の革新的治療法の開発と治療効果予測技術の開発	山末 英典	精神医学講座	45,544,192	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
革新的な自閉症中核症状治療法の創出	山末 英典	精神医学講座	3,902,951	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
社会心理学・神経科学・内分泌学の連携による文化差の遺伝的基盤の解明	山末 英典	精神医学講座	1,200,000	補委	独立行政法人日本学術振興会
人間力活性化によるスーパー日本人の育成拠点	山末 英典	精神医学講座	4,000,100	補委	国立研究開発法人科学技術振興機構
原因不明遺伝子関連疾患の全国横断的症例収集・バンキングと網羅的解析	緒方 勤	小児科学講座	3,699,800	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
SGA性低身長に対する遺伝子診断システムの開発と遺伝学的原因に基づく身長予後および治療法	緒方 勤	小児科学講座	2,500,000	補委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
遺伝解析とヒトiPS細胞由来視神経細胞を用いた小児の視神経障害の病態と治療の研究	堀田 喜裕	眼科学講座	1,500,000	補委	国立研究開発法人国立成育医療研究センター
手術療法の標準化に向けた消化器外科専門医育成に関する研究	今野 弘之	外科学第二	12,168,000	補委	厚生労働省科学研究費
認知症発症リスクの減少および介護者等の負担軽減を目指したAge-Friendly Citiesの創生に関する研究	尾島 俊之	健康社会医学	5,600,000	補委	厚生労働省科学研究費
性分化・性成熟疾患群における診療ガイドラインの作成と普及	緒方 勤	小児科学	5,200,000	補委	厚生労働省科学研究費
電子カルテ情報を用いた証拠性のある臨床研究手法に関する研究	木村 通男	医療情報部	7,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースのNCD長期予後入力システムの構築に関する研究	今野 弘之	外科学第二	100,000	補委	厚生労働省科学研究費
自己免疫性出血症治療の「均てん化」のための実態調査と「総合的」診療指針の作成	浦野 哲盟	医生理学	225,000	補委	厚生労働省科学研究費
遺伝性白質疾患の診断・治療・研究システムの構築	才津 浩智	医化学	500,000	補委	厚生労働省科学研究費
自己免疫性出血症治療の「均てん化」のための実態調査と「総合的」診療指針の作成	岩城 孝行	薬理学	450,000	補委	厚生労働省科学研究費
社会的要因を含む生活習慣病リスク要因の解明を目指した国民代表集団の大規模コホート研究:NIPPON DATA80/90/2010	尾島 俊之	健康社会医学	450,000	補委	厚生労働省科学研究費
健康増進・栄養政策の推進における国民健康・栄養調査の活用手法の開発	尾島 俊之	健康社会医学	1,500,000	補委	厚生労働省科学研究費
母子の健康改善のための母子保健情報利活用に関する研究	尾島 俊之	健康社会医学	400,000	補委	厚生労働省科学研究費
麻薬・向精神薬、法規制植物等の規制薬物の鑑別等に関する研究	長谷川 弘太郎	法医学	800,000	補委	厚生労働省科学研究費
びまん性肺疾患に関する調査研究	須田 隆文	内科学第二	300,000	補委	厚生労働省科学研究費
効率的な肝炎ウイルス検査陽性者フォローアップシステムの構築のための研究	小林 良正	内科学第二	200,000	補委	厚生労働省科学研究費
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	松山 幸弘	整形外科	500,000	補委	厚生労働省科学研究費
難治性血管腫・血管奇形・リンパ管腫・リンパ管腫症および関連疾患についての調査研究	平川 聡史	皮膚科学	200,000	補委	厚生労働省科学研究費
総合的な思春期・若年成人(AYA)世代のがん対策のあり方に関する研究	大園 誠一郎	泌尿器科学	300,000	補委	厚生労働省科学研究費
中隔視神経異形成症の実態調査と診断基準・重症度分類の作成に関する研究	佐藤 美保	眼科学	100,000	補委	厚生労働省科学研究費
がん診療科データベースとJapanese National Cancer Database (JNCDB)の運用と他がん登録との連携	中村 和正	放射線腫瘍学	100,000	補委	厚生労働省科学研究費

国際標準に立脚した奇形症候群領域の診療指針に関する学際的・網羅的検討	緒方 勤	小児科学	1,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
ライソゾーム病(ファブリ病含む)に関する調査研究	福田 冬季子	小児科学	500,000	補委	厚生労働省科学研究費
疾患予後と医療の質の改善を目的とした多領域横断的な難治性肺高血圧症症例登録研究	渡邊 裕司	臨床薬理学	300,000	補委	厚生労働省科学研究費
間脳下垂体機能障害における診療ガイドライン作成に関する研究	沖 隆	地域家庭医療学	150,000	補委	厚生労働省科学研究費
摂食障害の診療体制整備に関する研究	竹林 淳和	精神科神経科	720,000	補委	厚生労働省科学研究費
妊産婦及び乳幼児の栄養管理の支援のあり方に関する研究	伊東 宏晃	周産母子センター	600,000	補委	厚生労働省科学研究費

6件  
3270000

計 428,820,741

199件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	Oishi S, Takano R, Tamura S et al.	第1内科	M2 polarization of murine peritoneal macrophages induces regulatory cytokine production and suppresses T-cell proliferation	Immunology, 2016,149(3), 320-328.	Original Article
2	Suzuki S, Iwaizumi M, Tseng-Rogenski S et al.	第1内科	Production of truncated MBD4 protein by frameshift mutation in DNA mismatch repair-deficient cells enhances 5-fluorouracil sensitivity that is independent of hMLH1 status	Cancer Biol Ther, 2016,17(7), 760-768.	Original Article
3	Kagami T, Sahara S, Ichikawa H et al.	第1内科	Potent acid inhibition by vonoprazan in comparison with esomeprazole, with reference to CYP2C19 genotype	Aliment Pharmacol Ther, 2016,43(10),1048-1059.	Original Article
4	Ichikawa H, Sugimoto M, Sakao Y et al.	第1内科	Relationship between ghrelin, Helicobacter pylori and gastric mucosal atrophy in hemodialysis patients	World JGastroenterol, 2016,22(47), 10440-10449.	Original Article
5	Ichikawa H, Sugimoto M, Sugimoto K et al.	第1内科	Rapid metabolizer genotype of CYP2C19 is a risk factor of being refractory to proton pump inhibitor therapy for reflux esophagitis	J Gastroenterol Hepatol, 2016,31(4), 716-726.	Original Article
6	Kagami T, Sahara S, Ichikawa H et al.	第1内科	Potent acid inhibition by vonoprazan in comparison with esomeprazole, with reference to CYP2C19 genotype	Aliment Pharmacol Ther. 2016 May;43(10):1048-59.	Original Article
7	Tsuji N, Tsuji T, Ohashi N et al.	第1内科	Role of mitochondrial DNA in septic AKI via toll-like receptor 9	J Am Soc Nephrol 2016,27(7): 2009-2020.	Original Article
8	Isobe S, Ohashi N, Ishigaki S et al.	第1内科	Augmented circadian rhythm of the intrarenal renin-angiotensin systems in anti-thymocyte serum nephritis rats	Hypertens Res. 2016,39(5):312-20.	Original Article
9	Ishigaki S, Ohashi N, Isobe S et al.	第1内科	Impaired endogenous nighttime melatonin secretion relates to intrarenal renin-angiotensin system activation and renal damage in patients with chronic kidney disease	Clin Exp Nephrol. 2016,20(6):878-884.	Original Article
10	Iwakura T, Fujigaki Y, Fujikura T et al.	第1内科	Acquired resistance to rechallenge injury after acute kidney injury in rats is associated with cell cycle arrest in proximal tubule cells	Am J Physiol Renal Physiol. 2016,310(9):F872-84.	Original Article
11	Enomoto N, Chida K, Suda T et al.	第2内科	An exploratory trial of intravenous immunoglobulin therapy for idiopathic pulmonary fibrosis: a preliminary multicenter report	Clin Respir J. 2016,10(6):746-755.	Original Article
12	Enomoto Y, Inui N, Kato T et al.	第2内科	Low forced vital capacity predicts cytotoxic chemotherapy-associated acute exacerbation of interstitial lung disease in patients with lung cancer	Lung Cancer 2016,96:63-67.	Original Article
13	Enomoto Y, Inui N, Yoshimura K et al.	第2内科	Lung cancer development in patients with connective tissue disease-related interstitial lung disease: A retrospective observational study	Medicine (Baltimore) 2016 Dec,95(50):e5716. (オンライン)	Original Article
14	Enomoto Y, Yokomura K, Hasegawa H et al.	第2内科	Healthcare-associated pneumonia with positive respiratory methicillin-resistant Staphylococcus aureus culture: Predictors of the true pathogenicity	Geriatr Gerontol Int. 2017,17: 456-462.	Original Article
15	Inoue Y, Yoshimura K, Mori K,	第2内科	Clinical significance of PD-L1 and PD-L2 copy number gains in non-small-cell lung cancer	Oncotarget 2016,7(22):32113-32128.	Original Article
16	Karayama M, Inui N, Fujisawa T et al.	第2内科	Maintenance therapy with pemetrexed and bevacizumab versus pemetrexed monotherapy after induction therapy with carboplatin, pemetrexed, and bevacizumab in patients with advanced non-squamous non small cell lung cancer	Eur J Cancer. 2016,58:30-37.	Original Article

16件

17	Mikamo M, Fujisawa T, Oyama Y et al.	第2内科	Clinical Significance of Forced Oscillation Technique for Evaluation of Small Airway Disease in Interstitial Lung Diseases	Lung 2016,194(6):975-983.	Original Article
18	Mori K, Fujisawa T, Inui N et al.	第2内科	Step-down treatment from medium-dosage of budesonide/formoterol in controlled asthma	Respir Med. 2016,119:1-6.	Original Article
19	Suzuki S, Karayama M, Inui N et al.	第2内科	Continuation maintenance therapy with S-1 in chemotherapy-naïve patients with advanced squamous cell lung cancer	Invest New Drugs. 2016,34(4):490-496.	Original Article
20	Suzuki S, Karayama M, Inui N et al.	第2内科	Sequential addition of aprepitant in patients receiving carboplatin-based chemotherapy	Med Oncol. 2016,33(7):65.	Original Article
21	Suzuki Y, Enomoto Y, Yokomura K et al.	第2内科	Soluble hemoglobin scavenger receptor CD163 (sCD163) predicts mortality of community-acquired pneumonia	J Infect. 2016,73(4):375-377.	Original Article
22	Suzuki Y, Imokawa S, Sato J et al.	第2内科	Cumulative incidence of tuberculosis in lung cancer patients in Japan: A 6-year observational study	Respir Investig. 2016,54(3):179-183.	Original Article
23	Suzuki Y, Maazi H, Sankaranarayanan I et al.	第2内科	Lack of autophagy induces steroid-resistant airway inflammation	J Allergy Clin Immunol. 2016,137(5):1382-1389.	Original Article
24	Suzuki Y, Shirai M, Asada K et al.	第2内科	Utility of Macrophage Activated Marker, CD163, for Diagnosis and Prognosis in Pulmonary Tuberculosis	Ann Am Thorac Soc: 2017,14(1): 57-64.	Original Article
25	Uehara M, Enomoto N, Mikamo M et al.	第2内科	Impact of angiotensin-1 and -2 on clinical course of idiopathic pulmonary fibrosis	Respir Med. 2016,114:18-26.	Original Article
26	Yasui H, Donahue DL, Walsh M et al.	第2内科	Early coagulation events induce acute lung injury in a rat model of blunt traumatic brain injury	Am J Physiol Lung Cell Mol Physiol. 2016,311(1):L74-86.	Original Article
27	Yoshimura K, Suzuki Y, Uto T et al.	第2内科	Morphological changes in small pulmonary vessels are associated with severe acute exacerbation in chronic obstructive pulmonary disease	Int J Chron Obstruct Pulmon Dis. 2016,11:1435-1445.	Original Article
28	Enomoto Y, Nakamura Y, Enomoto N et al.	第2内科	Japanese herbal medicine-induced pneumonitis: A review of 73 patients	Respir Investig, 2017,55, 138-44.	Original Article
29	Fujisawa T, Hozumi H, Kono M et al.	第2内科	Predictive factors for long-term outcome in polymyositis/dermatomyositis-associated interstitial lung diseases	Respir Investig, 2017,55(2), 130-37.	Original Article
30	Karayama M, Inui N, Mori K et al.	第2内科	Respiratory impedance is correlated with morphological changes in the lungs on three-dimensional CT in patients with COPD	Sci Rep. 2017 Feb,7:41709. (オンライン)	Original Article
31	Oyama Y, Enomoto N, Suzuki Y et al.	第2内科	Evaluation of urinary desmosines as a noninvasive diagnostic biomarker in patients with idiopathic pleuroparenchymal fibroelastosis (PPFE)	Respir Med, 2017,123, 63-70.	Original Article
32	Enomoto Y, Suzuki Y, Hozumi H et al.	第2内科	Clinical significance of soluble CD163 in polymyositis-related or dermatomyositis-related interstitial lung disease	Arthritis Res Ther. 2017Jan,19(1):9. (オンライン)	Original Article
33	Inoue Y, Yoshimura K, Kurabe N et al.	第2内科	Prognostic impact of CD73 and A2A adenosine receptor expression in non-small-cell lung cancer	Oncotarget, 2017,31, 8738-51.	Original Article
34	Enomoto Y, Inui N, Yoshimura K et al.	第2内科	Lung cancer development in patients with connective tissue disease-related interstitial lung disease: A retrospective observational study	Medicine (Baltimore). 2016 Dec ,95(50):e5716. (オンライン)	Original Article
35	Galle-Treger L, Suzuki Y, Patel N et al.	第2内科	Nicotinic acetylcholine receptor agonist attenuates ILC2-dependent airway hyperreactivity	Nat Commun. 2016 Oct,7:13202. (オンライン)	Original Article
36	Akamatsu T, Shirai T, Shimoda Y et al.	第2内科	Forced oscillation technique as a predictor of FEV1 improvement in asthma	Respiratory Physiology & Neurobiology 2017,236:78-83.	Original Article
37	Akita T, Shirai T, Mori K et al.	第2内科	Association of the forced oscillation technique with negative expiratory pressure in COPD	Respir Physiol Neurobiol 2016,220:62-68.	Original Article
38	Ozawa Y, Akahori D, Koda K et al.	第2内科	Distinctive impact of pre-existing interstitial lung disease on the risk of chemotherapy-related lung injury in patients with lung cancer	Cancer Chemother Pharmacol. 2016,77(5):1031-1038.	Original Article

39	Kakizawa K, Watanabe M, Mutoh H et al.	第2内科	A novel GABA-mediated corticotropin-releasing hormone secretory mechanism in the median eminence	Sci Adv. 2016 Aug,2(8):e1501723. (オンライン)	Original Article
40	Ohba K, Leow MK, Singh BK et al.	第2内科	Desensitization and Incomplete Recovery of Hepatic Target Genes After Chronic Thyroid Hormone Treatment and Withdrawal in Male Adult Mice	Endocrinology. 2016,157(4):1660-72.	Original Article
41	Sakamoto A, Saotome M, Hasan P et al.	第3内科	Eicosapentaenoic acid ameliorates palmitate-induced lipotoxicity via the AMP kinase/dynamin-related protein-1 signaling pathway in differentiated H9c2 myocytes	Exp Cell Res. 2017,351(1):109-120.	Original Article
42	Suwa K, Saitoh T, Takehara Y et al.	第3内科	Intra-left ventricular flow dynamics in patients with preserved and impaired left ventricular function: analysis with three-dimensional cine phase contrast magnetic resonance imaging (4D-Flow)	J Magn Reson Imaging 2016; 44: 1493-1503.	Original Article
43	Sano M, Satoh H, Suwa K et al.	第3内科	Intra-cardiac distribution of late gadolinium enhancement in cardiac sarcoidosis and dilated cardiomyopathy	World J Cardiol 2016; 8 (9): 496-503.	Original Article
44	Sakamoto A, Saotome M, Hosoya N et al.	第3内科	Aberrant serum polyunsaturated fatty acids profile is relevant with acute coronary syndrome	Heart Vessels 2016; 8:1209-1217.	Original Article
45	Yokokura M, Terada T, Bunai T et al.	精神科	Depiction of microglial activation in aging and dementia: Positron emission tomography with [11C]DPA713 versus [11C](R)PK11195	J Cereb Blood Flow Metab 2017,37(3): 877-889.	Original Article
46	Kameno Y, Suzuki K, Takagai S et al.	精神科	Mismatch in cerebral blood flow and glucose metabolism after the forced swim stress in rats	Acta Neuropsychiatr, 2016,28(6), 352-356.	Original Article
47	Ishigaki H, Hiraide T, Miyagi Y et al.	小児科	Childhood-Onset Multifocal Motor Neuropathy With Immunoglobulin M Antibodies to Gangliosides GM1 and GM2:A Case Report and Review of the Literature	Pediatr Neurol. 2016;62:51-7.	Original Article
48	Fujisawa Y, Sakaguchi K, Ono H et al.	小児科	Combined steroidogenic characters of fetal adrenal and Leydig cells in childhood adrenocortical carcinoma	J Steroid Biochem Mol Biol.2016,159:86-93.	Original Article
49	Ohtaka K, Fujisawa Y, Takada F et al.	小児科	FGFR1 Analyses in Four Patients with Hypogonadotropic Hypogonadism with Split-Hand/Foot Malformation: Implications for the Promoter Region	Hum Mutat. 2017,38(5):503-506.	Original Article
50	Iwashima S, Uchiyama H, Ishikawa T et al.	小児科	Measurement of Aortic Valve Coaptation and Effective Height Using Echocardiography in Patients with Ventricular Septal Defects and Aortic Valve Prolapse	Pediatr Cardiol. 2017,38(3), 608-616.	Original Article
51	Iwashima S, Ishikawa T, Itoh H.	小児科	Reproductive technologies and the risk of congenital heart defects	Hum Fertil. 2017,20(1), 14-21.	Original Article
52	Iwashima S, Ishikawa T.	小児科	Quantitative, Noninvasive Assessment of Patent Ductus Arteriosus Shunt Flow by Measuring Proximal Isovelocity Surface Area on Color Doppler Mapping in Very Low-Birth-Weight Infants	Am J Perinatol. 2016,33(10), 930-938.	Original Article
53	Takahashi H, Inoue J, Sakaguchi K et al.	小児科	Autophagy is required for cell survival under L-asparaginase-induced metabolic stress in acute lymphoblastic leukemia cells	Oncogene. 2017,36(30):4267-4276.	Original Article
54	Asahina M, Endoh Y, Matsubayashi T et al.	小児科	Novel RAB3GAP1 compound heterozygous mutations in Japanese siblings with Warburg Micro syndrome	Brain Dev 2016,38 (3): 337-340.	Original Article
55	Fujisawa Y, Fukami M, Hasegawa T et al.	小児科	Long-term clinical course in three patients with MAML1 mutations	Endocr J. 2016,63(9):835-839.	Original Article
56	Asahina M, Endoh Y, Matsubayashi T et al.	小児科	Genomewide array comparative genomic hybridization in 55 Japanese normokaryotypic patients with non-syndromic intellectual disability	J Pediatr Neurol Disord. 2016 November,2(1)108. (オンライン)	Original Article
57	Ohishi A, Nishimura G, Kato F et al.	小児科	Mutation analysis of FGFR1-3 in 11 Japanese patients with syndromic craniosynostoses	Am J Med Genet A 2017,173 (1): 157-162.	Original Article
58	Osamu Natsume, Shigenori Kabashima, Junko Nakazato et al.	小児科	Two-step egg introduction for prevention of egg allergy in high-risk infants with eczema (PETIT): a randomised, double-blind, placebo-controlled trial	Lancet, 2017,389, 276-286.	Original Article

59	Natsume K, Shiiya N, Takehara Y et al.	第一外科	Characterizing saccular aortic arch aneurysms from the geometry-flow dynamics relationship	J Thorac Cardiovasc Surg. 2017,153(6):1413-1420.	Original Article
60	Tsuda K, Shiiya N, Takahashi D et al.	第一外科	Transesophageal versus transcranial motor evoked potentials to monitor spinalcord ischemia	J Thorac Cardiovasc Surg. 2016,151(2):509-17.	Original Article
61	Yamanaka K.	第一外科	Outcomes of Concomitant Total Aortic Arch Replacement with Coronary Artery Bypass Grafting	Ann Thorac Cardiovasc Surg 2016,22:251-7.	Original Article
62	Kikuchi H, Miyata H, Konno H et al.	第二外科	Development and external validation of preoperative risk models for operative morbidities after total gastrectomy using a Japanese web-based nationwide registry	Gastric Cancer. 2017 Mar (オンライン)	Original Article
63	Sano M, Unno N, Sasaki T et al.	第二外科	Topologic distributions of vasa vasorum and lymphatic vasa vasorum in the aortic adventitia - Implications for the prevalence of aortic diseases	Atherosclerosis. 2016,247:127-34.	Original Article
64	Sugisawa R, Unno N, Saito T et al.	第二外科	Effects of compression stockings on elevation of leg lymph pumping pressure and improvement of quality of life in healthy female volunteers: a randomized controlled trial	Lymphat Res Biol. 2016,14 :95-103.	Original Article
65	Hiraide T, Ikegami K, Sakaguchi T et al.	第二外科	Accumulation of arachidonic acid-containing phosphatidylinositol at the outer edge of colorectal cancer	Sci Rep. 2016 July (オンライン)	Original Article
66	Sakata M, Takehara Y, Katahashi K et al.	第二外科	Hemodynamic Analysis of Endoleaks After Endovascular Abdominal Aortic Aneurysm Repair by Using 4-Dimensional Flow-Sensitive Magnetic Resonance Imaging	Circ J. 2016,80(8):1715-25.	Original Article
67	Sakai N, Takehara Y, Yamashita S et al.	脳神経外科	Shear Stiffness of 4 Common Intracranial Tumors Measured Using MR Elastography: Comparison with Intraoperative Consistency Grading	AJNR Am J Neuroradiol. 2016,37(10) : 1851-1859.	Original Article
68	Asakawa T, Fang H, Sugiyama K et al.	脳神経外科	Animal behavioral assessments in current research of Parkinson's disease	Neurosci Biobehav Rev 2016,65; 63-94.	Original Article
69	Nozaki T, Sugiyama K, Sameshima T et al.	脳神経外科	Supratentorial subdural hematoma following microvascular decompression: a report of four cases	Springerplus 2016,5, 353-357.	Original Article
70	Asakawa T, Fang H, Sugiyama K et al.	脳神経外科	Human behavioral assessments in current research of Parkinson's disease	Neurosci Biobehav Rev 2016,68; 741-72.	Original Article
71	Sakai N, Takehara Y, Yamashita S et al.	脳神経外科	Shear Stiffness of 4 Common Intracranial Tumors Measured Using MR Elastography: Comparison with Intraoperative Consistency Grading	AJNR Am J Neuroradiol, 2017,36; 1851-1859.	Original Article
72	Banno T, Hasegawa T, Yamato Y et al.	整形外科	T1 Pelvic Angle Is a Useful Parameter for Postoperative Evaluation in Adult Spinal Deformity Patients	Spine 2016,41(21) , 1641-1648.	Original Article
73	Banno T, Togawa D, Arima H et al.	整形外科	The cohort study for the determination of reference values for spinopelvic parameters (T1 pelvic angle and global tilt) in elderly volunteers	Eur Spine J 2016,25(11) , 3687-3693.	Original Article
74	Banno T, Hasegawa T, Yamato Y et al.	整形外科	The Prevalence and Risk Factors of Iliac Screw Loosening After Adult Spinal Deformity Surgery	SPINE. 2017 Sep,42(17):E1024-E1030 (オンライン)	Original Article
75	Hanada M, Takahashi M, Furuhashi H,	整形外科	Elevated erythrocyte sedimentation rate and high-sensitivity C-reactive protein in osteoarthritis of the knee : relationship with clinical findings and radiographic severity	Ann Clin Biochem 2016,53 (Pt 5) , 548-553.	Original Article
76	Yamato Y, Matsuyama Y, Hasegawa K et al.	整形外科	A Japanese nationwide multicenter survey on perioperative complications of corrective fusion for elderly patients with adult spinal deformity	J Orthop Sci 2017,22(2), 237-242.	Original Article
77	Yamato Y, Hasegawa T, Kobayashi S,	整形外科	Calculation of the Target Lumbar Lordosis Angle for Restoring an Optimal Pelvic Tilt in Elderly Patients with Adult Spinal Deformity	Spine 2016,41(4) , E211-217.	Original Article
78	Yoshida G, Sato K, Kanemura T et al.	整形外科	Accuracy of Percutaneous Lumbosacral Pedicle Screw Placement Using the Oblique Fluoroscopic View Based on Computed Tomography Evaluations	Asian Spine J 2016,10(4) , 630-638.	Original Article

79	Xu Dongmin, Omura T, Masaki N,	整形外科	Increased arachidonic acid-containing phosphatidylcholine is associated with reactive microglia and astrocytes in the spinal cord after peripheral nerve injury	Sci Rep. 2016 May,23, 1-11. (オンライン)	Original Article
80	Banno T, Hasegawa T, Yamato Y et al.	整形外科	T1 Pelvic Angle Is a Useful Parameter for Postoperative Evaluation in Adult Spinal Deformity Patients	Spine 2016,41 (21) , 1641-1648.	Original Article
81	Fujiyama T, Ito T, Umayahara T et al.	皮膚科	Topical application of a vitamin D3 analogue and corticosteroid to psoriasis plaques depresses skin infiltration of TH17 cells and their ex vivo expansion	J Allergy Clin Immunol 2016,138 : 517-528.e5.	Original Article
82	Suzuki T, Tatsuno K, Ito T et al.	皮膚科	Distinctive downmodulation of plasmacytoid dendritic cell functions by vitamin D3 analogue calcipotriol	J Dermatol Sci 2016,84 : 71-79.	Original Article
83	Suzuki T, Tokura Y, Ito T	皮膚科	Similarities of dermoscopic findings in alopecia areata between human and C3H/HeJ mouse	J Dermatol Sci 2016,83 : 154-157.	Original Article
84	Tatsuno K, Fujiyama T, Matsuoka H et al.	皮膚科	Clinical categories of exaggerated skin reactions to mosquito bites and their pathophysiology	J Dermatol Sci 2016,82 : 145-152.	Original Article
85	Ozono S, Tsukamoto T, Naito S et al.	泌尿器科	Efficacy and safety of a 3-month dosing regimen of degarelix in Japanese patients with prostate cancer: a phase II maintenance-dose-finding study	Jpn J Clin Oncol 2017,47(5):438-446.	Original Article
86	Miyake H, Harada K, Ozono S et al.	泌尿器科	Assessment of Efficacy, Safety, and Quality of Life of 124 Patients Treated With Axitinib as Second-Line Therapy for Metastatic Renal-Cell Carcinoma: Experience in Real-World Clinical Practice in Japan	Clin Genitourin Cancer 2017,15(1):122-128.	Original Article
87	Ozono S, Tsukamoto T, Naito S et al.	泌尿器科	Efficacy and safety of a 3-month dosing regimen of degarelix in Japanese patients with prostate cancer: a phase II maintenance-dose-finding study	Jpn J Clin Oncol. 2017,47(5):438-446.	Original Article
88	Miyake H, Imai S, Tamura K et al.	泌尿器科	Comparison of Tyrosine Kinase Inhibitor Versus Mammalian Target of Rapamycin Inhibitor as Second-line Molecular-targeted Therapy for Patients with Poor-risk Metastatic Renal Cell Carcinoma	Anticancer Res 2017,37(3):1523-1528.	Original Article
89	Takaoka N, Takayama T, Ozono S.	泌尿器科	Functional analysis of fatty acid binding protein 7 and its effect on fatty acid of renal cell carcinoma cell lines	BMC Cancer. 2017 Mar,17(1):192. (オンライン)	Original Article
90	Miyake H, Hara T, Tamura K et al.	泌尿器科	Independent association between time to prostate-specific antigen (PSA) nadir and PSA progression-free survival in patients with docetaxel-naïve, metastatic castration-resistant prostate cancer receiving abiraterone acetate, but not enzalutamide	Urol Oncol. 2017,35(6):432-437.	Original Article
91	Motoyama D, Ishii Y, Takehara Y et al.	泌尿器科	Four-dimensional phase-contrast vastly undersampled isotropic projection reconstruction (4D PC-VIPR) MR evaluation of the renal arteries in transplant recipients: Preliminary results	J Magn Reson Imaging. 2017,46(2):595-603.	Original Article
92	Furuse H, Matsushita Y, Yajima T et al.	泌尿器科	Systematic regional lymph node dissection for upper tract urothelial carcinoma improves patient survival	Jpn J Clin Oncol , 2017,47(3):239-246.	Original Article
93	Miyake H, Miyazaki A, Yao A et al.	泌尿器科	Significance of erection hardness score as a diagnostic tool to assess erectile function recovery in Japanese men after robot-assisted radical prostatectomy	J Robot Surg 2016,10: 221-226.	Original Article
94	Miyake H, Hara T, Tamura K et al.	泌尿器科	Comparative assessment of efficacies between 2 alternative therapeutic sequences with novel androgen receptor-axis-targeted agents in patients with chemotherapy-naïve metastatic castration-resistant prostate cancer	Clin Genitourin Cancer. 2017 Aug,15(4):e591-e597 (オンライン)	Original Article
95	Miyake H, Imai S, Harada K et al.	泌尿器科	Absence of significant correlation of adverse events between first- and second-line tyrosine kinase inhibitors in patients with metastatic renal cell carcinoma	Clin Genitourin Cancer 2016,14: e19-24.	Original Article
96	Miyake H, Miyazaki A, Furukawa J et al.	泌尿器科	Prospective assessment of time-dependent changes in quality of life of Japanese patients with prostate cancer following robot-assisted radical prostatectomy	J Robot Surg 2016,10: 201-207.	Original Article

97	Otsuka A, Kageyama S, Suzuki T et al.	泌尿器科	Comparison of mirabegron and imidafenacin for efficacy and safety in Japanese female patients with overactive bladder: A randomized controlled trial (COMFORT study)	Int J Urol 2016,23(12):1016-1023.	Original Article
98	Miyake H, Harada K, Ozono S et al.	泌尿器科	Efficacy and safety of axitinib in elderly patients with metastatic renal cell carcinoma	Med Oncol 2016,33(8):95.	Original Article
99	Miyake H, Harada K, Ozono S et al.	泌尿器科	Prognostic significance of early tumor shrinkage under second-line targeted therapy for metastatic renal cell carcinoma: A retrospective multi-institutional study in Japan	Mol Diagn Ther 2016,20(4):385-92.	Original Article
100	Miyake H, Hara T, Ozono S et al.	泌尿器科	Impact of prior use of an androgen receptor-axis-targeted (ARAT) agent with or without subsequent taxane therapy on the efficacy of another ARAT agent in patients with metastatic castration-resistant prostate cancer	Clin Genitourin Cance 2016,15(2):e217-e222.	Original Article
101	Miyake H, Muramaki M, Imai S et al.	泌尿器科	Changes in renal function of patients with metastatic renal cell carcinoma during treatment with molecular-targeted agents	Target Oncol 2016,11: 329-335.	Original Article
102	Miyake H, Miyazaki A, Imai S et al.	泌尿器科	Early tumor shrinkage under treatment with first-line tyrosine kinase inhibitors as a predictor of overall survival in patients with metastatic renal cell carcinoma: a retrospective multiinstitutional study in Japan	Target Oncol 2016,11: 175-182.	Original Article
103	Miyake H, Hara T, Terakawa T et al.	泌尿器科	Comparative assessment of clinical outcomes between abiraterone acetate and enzalutamide in patients with docetaxel-naive metastatic castration-resistant prostate cancer: Experience in real-world clinical practice in Japan	Clin Genitourin Cancer 2016,15(2):313-319.	Original Article
104	Wang C, Hosono K, Kachi S et al.	眼科	Novel OPN1LW/OPN1MW deletion mutations in 2 Japanese families with blue cone monochromacy	Human Genome Variation. 2016 May,3:16011. (オンライン)	Original Article
105	Miyamichi D, Asahina M, Nakajima J et al.	眼科	Novel HPS6 mutations identified by whole-exome sequencing in two Japanese sisters with suspected ocular albinism	J Hum Genet 2016,61: 839-842.	Original Article
106	Komori M, Suzuki H, Hikoya A et al.	眼科	Evaluation of surgical strategy based on the intraoperative superior oblique tendon traction test	PLoS One.2016 Dec,11(12): e0168245. (オンライン)	Original Article
107	Hosokawa S, Sugiyama K, Takahashi G et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Prognostic factors for idiopathic sudden sensorineural hearing loss treated with hyperbaric oxygen therapy and intravenous steroids	J Laryngol Otol 2017,131 (1); 77-82.	Original Article
108	Hosokawa S, Takahashi G, Baba S et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Small cell neuroendocrine carcinomas arising in the head and neck region	J Oral Maxillofac Surg 2016,74 (5); 1091-1095.	Original Article
109	Misawa K*, Mochizuki D, Imai A et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Prognostic value of aberrant promoter hypermethylation of tumor-related genes in early-stage head and neck cancer	Oncotarget; 2016,24: 26087-26098.	Original Article
110	Misawa K*, Mochizuki D, Endo S et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Site-specific methylation patterns of the GAL and GALR1/2 genes in head and neck cancer: potential utility as biomarkers for prognosis	Mol carcinogenesis; 2017,56(3):1107-1116.	Original Article
111	Misawa K, Mochizuki D, Imai A et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Prognostic value of aberrant promoter hypermethylation of tumor-related genes in early-stage head and neck cancer	Oncotarget. 2016,7, 26087-26098.	Original Article
112	Misawa K, Misawa Y, Kanazawa T et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	Epigenetic inactivation of galanin and GALR1/2 is associated with early recurrence in head and neck cancer	Clin Exp Metastasis. 2016,33: 187-95.	Original Article
113	Endo S, Mizuta K, Takahashi G et al.	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	The effect of ventilation tube insertion or trans-tympanic silicone plug insertion on a patulous Eustachian tube	Acta Otolaryngol 2016,136(6):551-555.	Original Article
114	Oda T, Itoh H, Kawai K et al.	産婦人科	Three successful deliveries involving a woman with congenital afibrinogenemia - conventional fibrinogen concentrate infusion vs. 'as required' fibrinogen concentrate infusion based on changes in fibrinogen clearance	Haemophilia. 2016,22(5): e478-81.	Original Article

115	Uchida T, Kanayama N, Kawai K et al.	産婦人科	Craniofacial tissue oxygen saturation is associated with blood pH using an examiner's finger-mounted tissue oximetry in mice	J Biomed Opt.2016 Apr,21(4):40502. (オンライン)	Original Article
116	Mukai M, Kashiwagi Y, Itoh H et al.	産婦人科	Comparison between enoxaparin sodium and unfractionated heparin administered within 24 hours of cesarean section	Hyperterns Res Pregnancy. 2016,4: 16-23.	Original Article
117	Mukai M, Uchida T, Itoh H et al.	産婦人科	Tissue oxygen saturation levels from fetus to neonate	J Obstet Gynaecol Res. 2017,43(5):855-859.	Original Article
118	Shiotani S, Kobayashi T, Hayakawa H et al.	放射線科診断学・核医学	Hepatic relaxation times from postmortem MR imaging of adult humans	Magn Reson Med Sci 2016,15 (3): 281-287.	Original Article
119	Yoshizawa N, Ueda Y, Nasu H et al.	放射線科診断学・核医学	Effect of the chest wall on the measurement of hemoglobin concentrations by near-infrared time-resolved spectroscopy in normal breast and cancer	Breast Cancer 2016,23 (6): 844-850.	Original Article
120	Kawashima S, Suzuki Y, Sato T et al.	麻酔科蘇生科	Four-Group Classification Based on Fibrinogen Level and Fibrin Polymerization Associated With Postoperative Bleeding in Cardiac Surgery	Clinical and Applied Thrombosis/Hemostasis. 2016,22(7):648-55.	Original Article
121	Tetsuji Nagata, Kazuma Masumoto, Yutaro Hayashi et al.	歯科口腔外科	Three-dimensional computed tomographic analysis of variations of the carotid artery	J Cranio-Maxillo Fac Surg 2016,44: 734-742.	Original Article
122	Hayashi Y, Mikawa S, Masumoto K et al.	歯科口腔外科	Chordin and noggin expression in the adult rat trigeminal nuclei	J Chem Neuroanat, 2016,78, 36-41.	Original Article
123	Fujiwara M, Suzuki T, Fukamizu H et al.	形成外科	Successful treatment of postburn flexion contracture in fingers of early childhood with dynamic splint therapy after operation: long-term follow-up	Eur J Plast Surg. 2017 Feb (オンライン)	Original Article
124	Fujiwara M, Suzuki T, Takiguchi T et al.	形成外科	Evaluation of positron emission tomography imaging to detect lymph node metastases in patients with high-risk cutaneous squamous cell carcinoma	J Dermatol. 2016,43:1314-1320.	Original Article
125	Fujiwara M, Suzuki T, Senoo A et al.	形成外科	Evaluation of positron emission tomography imaging to detect lymph node metastases in patients with extramammary Paget's disease	J Dermatol.2017,44(8):939-943.	Original Article
126	Kono M, Nakamura Y, Yoshimura K et al.	検査部	Nonspecific interstitial pneumonia preceding diagnosis of collagen vascular disease	Respir Med. 2016,117, 40-47.	Original Article
127	Kono M, Nakamura Y, Oyama Y et al.	検査部	Increased levels of serum Wisteria floribunda agglutinin-positive Mac-2 binding protein in idiopathic pulmonary fibrosis	Respir Med. 2016,115, 46-52.	Original Article
128	Kurita T, Kawashima S, Morita K et al.	手術部	Use of a short-acting beta1 blocker during endotoxemia may reduce cerebral tissue oxygenation if haemodynamics are depressed by a decrease in heart rate	Shock.2017,47(6);765-771.	Original Article
129	Hozumi H, Fujisawa T, Nakashima R et al.	救急部	Comprehensive assessment of myositis-specific autoantibodies in polymyositis/dermatomyositis-associated interstitial lung disease	Respiratory Medicine, 2016,121, 91-99.	Original Article
130	Hozumi H, Enomoto N, Oyama Y et al.	救急部	Clinical Implication of Proteinase-3-antineutrophil Cytoplasmic Antibody in Patients with Idiopathic Interstitial Pneumonias	Lung, 2016,194, 235-242.	Original Article
131	Tsuji N, Tsuji T, Ohashi N et al.	血液浄化療法部	Role of Mitochondrial DNA in Septic AKI via Toll-Like Receptor 9	J Am Soc Nephrol. 2016,27(7): 2009-20.	Original Article
132	Ryo Kondo, Y Yamato, T Nagafusa et al.	リハビリテーション部	Effect of corrective long spinal fusion to the ilium on physical function in patients with adult spinal deformity	Eur Spine J. 2017,Aug;26(8):2138-2145.	Original Article
133	Odagiri K, Inui N, Hakamata A et al.	臨床研究管理センター	Non-invasive Evaluation of Pulmonary Arterial Blood Flow and Wall Shear Stress in Pulmonary Arterial Hypertension with 3D Phase Contrast Magnetic Resonance Imaging	Springerplus. 2016 Jul,5(1):1071. (オンライン)	Original Article

134	Furuta T, Sugimoto M, Kodaira C et al.	臨床研究管理センター	Influence of low-dose proton pump inhibitors administered concomitantly or separately on the anti-platelet function of clopidogrel	J Thromb Thrombolysis. 2016 43(3):333-342.	Original Article
135	Ishida T, Naito T, Sato H et al.	薬剤部	Relationship between the plasma fentanyl and serum 4β-hydroxycholesterol based on CYP3A5 genotype and gender in patients with cancer pain	Drug Metab Pharmacokinet 2016,31: 242-248.	Original Article
136	Yamamoto C, Ishida T, Osawa T et al.	薬剤部	Trends in non-prescription drug recalls in Japan	YAKUGAKU ZASSHI 2016,136: 1307-1312.	Original Article
137	Yoshikawa N, Naito T, Yagi T et al.	薬剤部	A validated fluorometric method for the rapid determination of pregabalin in human plasma applied to patients with pain	Ther Drug Monit 2016,38: 628-633.	Original Article
138	Tanaka H, Naito T, Mino Y et al.	薬剤部	Validated determination method of tramadol and its desmethylates in human plasma using an isocratic LC-MS/MS and its clinical application to patients with cancer pain or non-cancer pain	J Pharm Health Care Sci. 2016 Oct,2:25. (オンライン)	Original Article
139	Sato H, Naito T, Ishida T et al.	薬剤部	Relationships between oxycodone pharmacokinetics, central symptoms, and serum interleukin-6 in cachectic cancer patients	Eur J Clin Pharmacol 2016,72: 1463-1470.	Original Article
140	Hoshikawa K, Ono S	薬剤部	Discrepancies between multicriteria decision analysis-based ranking and intuitive ranking for pharmaceutical benefit-risk profiles in a hypothetical setting	J Clin Pharm Ther 2017,42: 80-86.	Original Article
141	Karayama M, Inui N, Kusagaya H et al.	臨床腫瘍学	Changes in cross-sectional area of pulmonary vessels on chest computed tomography after chemotherapy in patients with advanced non-squamous non-small-cell lung cancer	Cancer Chemother Pharmacol. 2016,77(5):1011-8.	Original Article
142	Karayama M, Inui N, Mori K et al.	臨床腫瘍学	Respiratory impedance is correlated with morphological changes in the lungs on three-dimensional CT in patients with COPD	Sci Rep. 2017 Feb,7:41709. (オンライン)	Original Article
143	Oishi S, Takano R, Tamura S et al.	細菌・免疫学	M2 polarization of murine peritoneal macrophages induces regulatory cytokine production and suppresses T-cell proliferation	Immunology, 2016,149, 320-358.	Original Article
144	Zhan F, Watanabe Y, Shimoda A et al.	臨床検査医学	Evaluation of serum bone alkaline phosphatase activity in patients with liver disease: Comparison between electrophoresis and chemiluminescent enzyme immunoassay	Clin Chim Acta. 2016,460, 40-45.	Original Article
145	Iijima S, Sekii K, Baba T et al.	地域周産期医療学	Seasonal variation in the international normalized ratio of neonates and its relationship with ambient temperature	BMC Pediatr. 2016 Jul ,16; 97. (オンライン)	Original Article
146	Iijima S, Baba T, Ueno D et al.	地域周産期医療学	International normalized ratio testing with point-of-care coagulometer in 1-month-old infants A comparison with Normotest	Thromb Res, 2016,145, 72-77.	Original Article
147	Ohishi A, Nishimura G, Kato F et al.	地域周産期医療学	Mutation analysis of FGFR 1-3 in Japanese patients with syndromic craniosynostoses	Am J Med Genet A 2017,173: 157-162.	Original Article
148	Takagai S, Tsuchiya KJ, Itoh H et al.	子どものこころの発達研究センター	Hamamatsu Birth Cohort for Mothers and Children (HBC Study)	International Journal of Epidemiology 2016,45(2): 333-342.	Original Article
149	Nishimura T, Takei N, Tsuchiya KJ et al.	子どものこころの発達研究センター	Identification of neurodevelopmental trajectories in infancy and of risk factors affecting deviant development: a longitudinal birth cohort study	International Journal of Epidemiology 2016,45: 543-53.	Original Article

16件

計149件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること  
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。  
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1	沖隆、飯野和美、山下美保 他	第二内科	先端巨大症薬物療法の長期成績. 日本内分泌学会雑誌 91巻Suppl. : 11-12, 2016	日本内分泌学会雑誌 2016,91巻Suppl. : 11-12.	Original Article
2	柿沢 圭亮、大川 雄太、大石 敏弘 他	第二内科	エクレーシス試薬コルチゾールIIを用いた血中コルチゾール測定の基礎的検討	医学と薬学 2015,73巻1号 : 71-76.	Original Article
3	則武秀尚、松永英里香、太田和義 他	第二内科	肝性浮腫に対するトルバプタンの治療効果に関する因子の検討	臨床薬理 2016,47: 17-20.	Original Article
4	佐藤 洋、佐野 誠、林 秀晴	第三内科	妊娠関連の急性心筋梗塞に対する集学的管理の重要性	循環器専門医「特集II:第79回日本循環器学会学術集会」心疾患の妊娠と出産—チーム管理の重要性 2016, 1: 21-26.	Original Article
5	川原央好、西川正則、中山佳子 他	小児外科	無症候性食道憩室	小児外科 2016,48, 949-953.	Original Article
6	川原央好	小児外科	食道インピーダンスpHモニタリング検査の有用性	週刊日本医事新報, 2016,4827, 61-63.	Original Article
7	山本尚人、海野直樹、犬塚和徳 他	第二外科	当院における術後・入院中に発症した有症状静脈血栓塞栓症症例の検討	静脈学 27巻1号 (2016.02),Page13-20.	Original Article
8	坂野友啓、長谷川智彦、大和 雄 他	整形外科	成人脊柱変形Type別の大腰筋・多裂筋面積の比較検討	J Spine Res 2016,7 (4) , 837-840.	Original Article
9	小林 祥、松山幸弘、川端茂徳 他	整形外科	ハイリスク脊椎手術における術中脊髄モニタリング脊椎脊髄病学会モニタリング委員会によるBr (E) -MsEP多施設研究	J Spine Res 2016,7 (5) , 897-900.	Original Article
10	小山博史、錦野匠一、星野裕信 他	整形外科	X線照射中心の違いによる股関節X線パラメータへの影響	Hip Joint 2016,42 (1) , 93-95.	Original Article
11	小山博史、錦野匠一、星野裕信 他	整形外科	急速破壊型股関節症患者における臥位 立位寛骨臼被覆量変化	Hip Joint 2016,42 (2) , 875-878.	Original Article
12	三原唯暉、松山幸弘、村田英之 他	整形外科	潜在性二分脊椎は腰椎分離症の予後不良因子であるか?	静岡整形外科医学雑誌9 (2):2016, 78-85.	Original Article
13	中村光志、小山博史、古橋弘基 他	整形外科	ソフトウェアを用いて算出した股関節X線学的指標の検者内・検者間誤差の検討	Hip Joint 2016,42 (1) , 96-99.	Original Article
14	錦野匠一、小山博史、星野裕信 他	整形外科	寛骨臼三次元評価ソフトウェア“ACX dynamics”で算出した放射状CE角の妥当性	Hip Joint 2016,42 (1) , 118-120.	Original Article
15	錦野匠一、小山博史、清水朋彦 他	整形外科	臨床室 人工股関節全置換術後に異所性骨化により股関節垂脱臼を生じた1例	整形外科 2016,67 (5) , 430-433.	Original Article
16	大村威夫、澤田智一、松山幸弘	整形外科	手正中神経に発生したfibrolipomatous hamartomaの3手	日本手外科学会雑誌 2016,33, 162-164.	Original Article
17	紫藤洋二、井上義也、松山幸弘	整形外科	軟部肉腫単純切除における治療背景	整形外科、(2017.02),68巻2号 Page116-117.	Original Article
18	鳥養栄治、鈴木基裕、松山幸弘	整形外科	メトレキサート効果不十分症例に対するタクロリムス、ミゾリピンを追加した3剤併用療法の効果 生物学的製剤併用療法との比較	臨床リウマチ 2016,28 (3) , 197-203.	Original Article

19	大和 雄、長谷川智彦、小林 祥 他	整形外科	成人脊柱変形の手術的治療 骨盤傾斜を改善することがポイントである	J Spine Res 2016,7(9) , 1352-1355.	Original Article
20	小山博史、高橋正哲、花田 充 他	整形外科	変形性膝関節症の股関節外旋に関連する骨形態・変形・アライメント	JOSKAS 2017,42(1) :158-159.	Original Article
21	栗山幸子、島正浩、倉新樹	皮膚科	特発性後天性全身性無汗症/減汗性コリン性蕁麻疹7例における減汗状態およびステロイドパルス療法による発汗回復の部位別検討	日本皮膚科学会雑誌 2016,126: 1263-1271.	Original Article
22	伊藤泰介、戸倉新樹、前島秀樹 他	皮膚科	女性における男性型脱毛症患者に対する女性ホルモン含有育毛剤の使用試験	皮膚の科学 2016,15: 502-512.	Original Article
23	松下雄登、古瀬 洋、松本力哉 他	泌尿器科	金属製の座金による陰茎絞扼症の1例	泌尿紀要 2016,62(12):661-665.	Original Article
24	長谷岡宗、新井慎司、鷲山愛 他	眼科	前眼部OCTを用いた水平筋付着部測定についての検討	眼臨紀 2017,10(2): 129-133.	Original Article
25	佐藤美保、彦谷明子	眼科	小児の斜視アップデート 小児斜視のQOL	眼臨紀 2017,10(1): 18-21.	Original Article
26	中西啓、水田邦博、遠藤志織 他	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	残存上皮が外表面化して治癒した先天性鼓膜真珠腫例	耳鼻臨床 2016,32: 403-406.	Original Article
27	金山尚裕	産婦人科	羊水塞栓症	日本周産期・新生児医学会雑誌 2016,52(3): 803-814.	Original Article
28	村上浩雄、山尚裕	産婦人科	婦人科における光線力学療法	MEDICAL PHOTONICS 2017,23: 27-31.	Original Article
29	内田季之	産婦人科	子宮内環境からみた胎児well-being評価法の検討 内診指接着型胎児オキシメーターを用いた新規胎児モニタリング法	日本産科婦人科学会雑誌 2016,68 : 2629-2635.	Original Article
30	小西憲太、神谷実佳、小松哲也 他	放射線腫瘍学	上顎洞癌に対する動注化学療法併用放射線療法の治療成績	臨床放射線, 2016,61巻13号, 1787-1792.	Original Article
31	御室総一郎、木村哲朗、栗田忠代士 他	麻酔科蘇生科	吸入一酸化窒素(NO)の出血性ショックに対する生存率の改善効果	Medical Gases 2016,18(1),69-71.	Original Article
32	深水秀一、水上高秀、石川佳代子	形成外科	Step by Step で進める腋臭症・腋窩多汗症治療	形成外科 2016,59:S115-120.	Original Article
33	水上高秀、永田武士、深水秀一 他	形成外科	3本針マイクロニードルを用いた腋窩多汗症に対するA型ボツリヌス毒素製剤局注療法	形成外科 2016,59:S73-76.	Original Article
34	太田悠介、水上高秀、藤原雅雄 他	形成外科	人工硬膜感染に伴う頭蓋骨欠損に対して遊離大網弁と肋軟骨移植により再建を行った1例	日形会誌 2016,36:560-565.	Original Article
35	釣谷大輔、前川真人	検査部	CGMを活かした血糖管理の有用性と今後の展望	臨床病理 2016,64(10) 1171-1177.	Original Article
36	木村哲朗、岩田紘樹、牧野洋 他	手術部	超音波装置を用いた下肢屈曲による大腿動静脈径および大腿静脈位置変化の検討	麻酔 2016,65(10),1000-1004.	Original Article
37	竹下 明裕、古牧 宏啓、浅井 隆善 他	輸血・細胞治療部	高校生の献血意識に関する調査	日本輸血・細胞治療学会誌 2016,62(6)711-717.	Original Article
38	高柳勇太、吉倉孝則、小山博史 他	リハビリテーション部	人工股関節全置換術後10m歩行速度の改善群と非改善群における身体機能の特徴	Hip Joint 2016 2(2) S233-S236	Original Article
39	高橋 大生、大城 昌平、山崎 一史 他	リハビリテーション部	肺がん、大腸がんに対する運動介入効果 システムティックレビューによる検討	理学療法科学 2017,32 巻 1号 Page21-27.	Original Article
40	橋本由里奈、美津島隆	リハビリテーション部	高度の脊椎後側弯症により重度の呼吸機能障害をきたした症例に対する脊椎矯正固定術前の呼吸リハビリテーションの経験	国立大学リハビリテーション療法士学術大会誌38回 2017 107-111	Original Article
41	古田隆久、加藤元嗣、伊藤 透 他	臨床研究管理センター	消化器内視鏡関連の偶発症に関する 第 6 回 全国調査報告 2008 年～2012 年までの 5 年間	Gastroenterological Endoscopy 2016 58(9) 1466-1491	Original Article

23件

計41件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ア 倫理委員会の役割・責務等 イ 倫理委員会の業務 ウ 倫理委員会の運営 エ 倫理委員会における審査 オ 倫理委員会事務局の業務	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。  
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 ア 利益相反マネジメントの目的・対象・対象者 イ 利益相反マネジメント委員会の設置・審議事項・組織 ウ 利益相反マネジメントのための調査方法 エ 審議、勧告、決定等の手続き オ 臨床研究に関する調査等 カ 研修・啓発活動	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年5回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年9回
・ 研修の主な内容 ア 臨床研究と倫理指針について イ 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針と臨床研究法案 ウ 臨床研究を行うときのポイント：研究の登録、インフォームドコンセント、資料の保管 エ 臨床研究推進のための研究方法論～リサーチクエスションの組み立て方を中心に～ オ 臨床研究と個人情報保護について	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

小児科プログラム、皮膚科プログラム、精神科プログラム、放射線科プログラム、病理プログラム、消化器病プログラム、肝胆膵疾患プログラム、循環器プログラム、呼吸器プログラム、血液プログラム、内分泌代謝科プログラム、腎臓・透析プログラム、神経内科プログラム、リウマチ(内科)プログラム、家庭医療プログラム、整形外科プログラム、産婦人科プログラム、眼科プログラム、耳鼻咽喉科・頭頸部外科プログラム、泌尿器科プログラム、脳神経外科プログラム、麻酔科プログラム、救急科プログラム、形成外科プログラム、リハビリテーション科プログラム、消化器外科プログラム、胸部外科領域(心臓血管外科、呼吸器外科)プログラム、一般外科(内視鏡外科)、乳腺外科プログラム、口腔外科専門医取得プログラム

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	56人
-------------	-----

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
宮嶋 裕明	第一内科	教授	36年	
須田 隆文	第二内科	教授	31年	
前川 裕一郎	第三内科	教授	22年	
山末 英典	精神科神経科	教授	19年	
緒方 勤	小児科	教授	36年	
椎谷 紀彦	第一外科	教授	33年	
竹内 裕也	第二外科	教授	25年	
難波 宏樹	脳神経外科	教授	37年	
松山 幸弘	整形外科	教授	29年	
戸倉 新樹	皮膚科	教授	34年	
三宅 秀明	泌尿器科	教授	24年	
堀田 喜裕	眼科	教授	34年	
峯田 周幸	耳鼻咽喉科	教授	37年	
松山 幸弘	産科婦人科	教授	30年	事務取扱
阪原 晴海	放射線科	教授	39年	
中島 芳樹	麻酔科蘇生科	教授	30年	
加藤 文度	歯科口腔外科	教授	33年	
松山 幸弘	リハビリテーション科	教授	29年	事務取扱
深水 秀一	形成外科	准教授	37年	
渡邊 裕司	臨床薬理内科	教授	34年	
前川 真人	検査部	教授	35年	
馬場 聡	病理部	教授	32年	
吉野 篤人	救急部	教授	31年	
木村 通男	医療情報部	教授	31年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>①緩和ケアスキル ②口腔ケア ③継続看護 ④認知症ケア ⑤術後ケア</p> <p>⑥皮膚排泄ケアコース ⑦静岡がん治療フォーラム</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>①5/9 ②6/29 ③8/24 ④9/14 ⑤10/12 ⑥6/9、11/10 ⑦9/15、H29/2/16</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>①72名 ②80名 ③159名 ④113名 ⑤111名 ⑥25名 ⑦81名</p>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<p>・研修の主な内容</p> <p>①退院支援研修 ②災害看護シミュレーション</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>①6/2、6/20、11/9 ②7/7</p> <p>・研修の参加人数</p> <p>①20名 ②25名</p>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<p>・研修の主な内容</p> <p>・研修の期間・実施回数</p> <p>・研修の参加人数</p>

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 <b>2. 現状</b>
管理責任者氏名	病院長 松山幸弘
管理担当者氏名	総務課長：葛山雅弘／人事課長：大谷理恵／医事課長：北村 強 薬剤部長：川上純一／放射線部長：阪原晴海／手術部長・医療機器管理部長：中島芳樹 看護部長：鈴木美恵子／診療情報管理部長：堀田喜裕

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	医事課	全科電子カルテを導入。カルテは、一患者1IDとし、入院及び外来ともに診療情報室において保存管理している。診療録の院外持ち出しは禁止している。
		各科診療日誌	医事課	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医事課	
		看護記録	医事課	
		検査所見記録	医事課	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状	医事課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課・医事課	
		高度の医療の研修の実績	医事課	
		閲覧実績	総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課・薬剤部	
		医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課・医療安全管理室	
規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課・医療安全管理室		
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課・医療安全管理室		
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課・医療安全管理室		

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課・感染対策室	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課・感染対策室	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課・感染対策室	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課・感染対策室	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	薬事部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬事部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬事部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬事部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医療機器管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療機器管理部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療機器管理部	
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療機器管理部			

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課・医療安全管理室
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課・感染対策室
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	薬剤部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課・診療情報管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課・診療情報管理部
		医療安全管理部門の設置状況	医事課・医療安全管理室
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課・医療安全管理室
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	薬剤部
		監査委員会の設置状況	医事課
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課・医療安全管理室
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課・医療安全管理室
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課・医療安全管理室
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課・医療安全管理室
職員研修の実施状況	医事課・医療安全管理室		
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課・医療安全管理室		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	事務局次長（総務・教育担当）山中和之	
閲覧担当者氏名	総務課長 葛山雅弘	
閲覧の求めに応じる場所	総務課情報公開室	
閲覧の手続の概要		
独立行政法人等の保有する情報の公開に関する法律（平成13年法律第140号）に基づき、国籍、住所、年齢、個人及び法人を問わず、浜松医科大学の保有する法人文書の開示を請求することができる。請求を受理してから、1か月以内（請求の内容によってはそれ以上の日数を要する場合もある。）に開示・不開示等を決定し、請求者に通知する。その後、請求者からの開示の実施申出を受け開示を実施する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件	
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 安全管理に関する基本的な考え方</li><li>2. 医療に係る安全管理のための委員会その他組織に関する基本的事項</li><li>3. 医療に係る安全教育のための職員研修に関する基本方針</li><li>4. 事故報告の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li><li>5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針</li><li>6. 職員と患者との間の情報共有に関する基本方針</li><li>7. 患者からの相談への対応に関する基本方針</li><li>8. その他医療安全の推進のための必要な基本方針</li></ol>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 ( 有 ・ 無 )</p> <p>・ 開催状況：年 1 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>医療安全管理体制の確保に関すること 医療事故等の把握、分析、対処改善、評価及び見直しに関すること 医療に係る安全管理のための職員の研修に関すること その他の医療の安全管理に関すること</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 6 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>講演会 3 回 ( 全職員対象 ) 医療安全管理及び感染対策に係る新任者研修 1 8 回 ( 中途採用職員対象 ) 研修医ガイダンス 1 回 ( 医療事故・安全対策について ) 新採用者オリエンテーション 3 回 ( 事故防止に関すること等 ) 看護助手研修 1 回</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( 有 ・ 無 )</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>インシデント報告 ( 患者安全に関する報告 ) 及び報告されたインシデント事例の検証に係るマニュアルの一部を改正した。</p>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 院内感染対策に関する基本的な考え方</li><li>2. 院内感染対策に関する管理組織機構</li><li>3. 職員研修に関する基本方針</li><li>4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針</li><li>5. アウトブレイクあるいは異常発生時の対応に関する基本方針</li><li>6. 患者等への情報提供と説明に関する基本方針</li><li>7. 感染対策に関する地域医療機関との連携</li></ol>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 院内感染対策の検討及び推進に関すること</li><li>2. 院内感染防止の対応及び原因究明に関すること</li><li>3. 院内感染等の情報収集及び分析に関すること</li><li>4. 感染予防及び感染対策の啓発並びに教育活動に関すること</li><li>5. 病院職員の感染管理に関すること</li><li>6. その他感染予防及び感染対策に関すること</li></ol>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 24 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>【全職員対象】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 院内感染対策講習会3回（C型肝炎対策、耐性菌の伝播防止、標準予防策の重要性）</li><li>・ セミナー2回（尿道留置カテーテル、ドレーン管理）</li></ul> <p>【職種・部署別研修】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 新採用看護師研修3回 ・ 研修医3回 ・ 看護師採用研修3回 ・ 看護助手採用時研修4回</li><li>・ 看護師（新・中途採用者以外）2回 ・ 看護助手（新・中途採用者以外）1回</li><li>・ 部署別勉強会1回</li></ul> <p>【委託業者】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 清掃業者 ・ エネルギーセンター</li></ul>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ((有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ICTラウンドによる感染対策の実施状況および環境整備の確認</li><li>・ 耐性菌発生状況の把握とアウトブレイク介入基準に基づく介入、および血液培養陽性患者の把握と治療評価</li><li>・ 広域抗菌薬および抗MRSA薬使用患者の抗菌薬使用モニタリングと抗菌薬適正使用の評価</li><li>・ 感染対策に関する介入を要した事例について部署内ミーティングを実施</li><li>・ 院内Web内の感染対策HP、ICT NEWSなどによる感染情報提供</li><li>・ 感染対策ポケットマニュアルの配付</li></ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>医薬品の安全使用のための注意点（アレルギーカード、輸液フィルターおよび院内事例の紹介）</li><li>静脈注射の知識および実施に当たり注意すべきポイント</li><li>処方オーダーの入力方法</li><li>医薬品の取扱で注意すべきこと</li></ul></li></ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>手順書の作成 (有・無)</li><li>業務の主な内容：<p>実施状況については年1回チェックシートを用いて確認している。</p></li></ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：<p>薬剤師による処方監査・入院患者への処方確認時に使用目的を確認し、必要に応じて疑義照会および処方確認を実施している。</p></li></ul>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 52 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 特定保守管理医療機器（医政指発第0330001, 0330018号）の本院医療従事者に対する機器の有効性、安全性、使用方法、保守点検等に関する事項を中心に定期研修を実施した。</li><li>2) 新たに導入した医療機器の関連医療従事者に対する機器の有効性、安全性、使用方法、保守点検等に関する事項を中心に研修を実施した。</li><li>3) 新人看護師に対する初期研修として、インシデント発生頻度の高い医療機器の有効性、安全性、使用方法、保守点検等に関する事項を中心に研修を実施した。</li></ol>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>本院医療機器管理部が管理する医療機器2577個の点検計画策定と実施、点検記録の保管を行った。部内点検を主とするが、特定の機器は業者依頼にて実施した。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 医薬品医療機器総合機構（PMDA）のメールリストメンバー登録により、自動送付される医療機器安全性情報を入手し、関連する部、科への伝達と注意喚起を行った。</li><li>2) 日本医療機能評価機構からの安全性情報、注意喚起情報の入手と関連する部、科への伝達と注意喚起を行った。</li><li>3) 厚生労働省通達、静岡県厚生局通達の入手と関連する部、科への伝達と注意喚起を行った。</li><li>4) 自主回収、改修報告、添付文書の改訂など製造メーカーから発せられる情報の入手と関連する部、科への伝達と注意喚起を行った。</li></ol>	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無								
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 責任者の資格 (医師・歯科医師) → 副病院長 (リスクマネジメント担当)</li><li>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 → 統括している。</li></ul>									
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ( 1 名 ) ・ 無								
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</li><li>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</li></ul> <p>情報の整理は薬剤部医薬品情報管理室にて実施している。</p> <p>情報の周知は添付文書改訂の通知を定期的実施している。また医薬品安全性情報等の通知および当該医師への伝達および DI ニュースの発行などを必要に応じて実施している。</p> <li>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</li> <p>未承認薬等による治療が必要になった場合、治療を実施する医師は薬剤部医薬品安全管理室あるいは製剤室に照会する。</p> <p>病棟などで薬剤師が確認した際は医師に疑義照会などを実施している。</p> <p>院内製剤は医の倫理委員会および薬剤管理委員会にて承認を受ける。</p> <p>未承認薬については評価委員会に意見聴取する。</p> <li>・ 担当者の指名の有無 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無</li> <li>・ 担当者の所属・職種：</li> <table data-bbox="159 1545 1276 1769"><tr><td>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 )</td><td>(所属： ， 職種 )</td></tr><tr><td>(所属： ， 職種 )</td><td>(所属： ， 職種 )</td></tr><tr><td>(所属： ， 職種 )</td><td>(所属： ， 職種 )</td></tr><tr><td>(所属： ， 職種 )</td><td>(所属： ， 職種 )</td></tr></table>		(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )
(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 )	(所属： ， 職種 )								
(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )								
(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )								
(所属： ， 職種 )	(所属： ， 職種 )								

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ( (有)・無 )</li> <li>・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・説明同意書を必要とする医療行為を行った診療録(100冊程度)をランダムに抽出し記載状況を確認した。結果等については委員会にて報告予定。</li> </ul> </li> </ul>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての入院診療録について、退院時要約、手術記録を確認している。</li> <li>・退院時要約の作成について、マニュアルを作成中。</li> </ul> </li> </ul>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	(有)・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の主な内容：</li> <li>・所属職員：専従（1）名、専任（3）名、兼任（13）名  うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（5）名  うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名  うち看護師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（5）名</li> </ul> <p>(注) 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の主な内容：</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">医療事故及びインシデントの収集、調査、分析に関すること。  医療事故防止対策の立案及び周知に関すること。  リスクマネージャーとの連絡調整に関すること。  医療事故防止に係る病院内の巡視・点検・評価に関すること。  医療事故防止に係る教育・研修・啓発の立案に関すること。  医療事故防止対策マニュアルの作成に関すること。  医療事故等に係る診療録等記載の確認、指導に関すること。  医療事故等に係る対応状況の確認、指導に関すること。  病院医療安全管理委員会の庶務に関すること。  医療安全に資する診療の状況の把握及び職員の医療安全の認識の状況の確認に関すること。</p> <p>※モニタリングの具体例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手術時の静脈血栓予防策の実施率</li> <li>・中心静脈挿入時のチェックリスト</li> </ul> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。  ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。</p>	

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無 (  有 · 無 )
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  有 · 無 )
- ・活動の主な内容：高難度新規医療技術申請に対する評価及び事例検証
  
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 · 無 )
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (  有 · 無 )

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (  有 · 無 )
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (  有 · 無 )
- ・活動の主な内容：  
当該未承認新規医薬品等と既存の医薬品とを比較した場合の優位性（予測される有害事象の重篤性、頻度等の安全性等の観点を含む。）  
未承認新規医薬品等の使用条件（使用する医師又は歯科医師の制限等）  
当該未承認新規医薬品等の使用に起因するものと疑われる有害事象の把握の方法（血液検査の実施、調査票の配布等）  
患者への説明及び同意の取得の方法
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (  有 · 無 )
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (  有 · 無 )

⑨ 監査委員会の設置状況

有 無

- ・監査委員会の開催状況：年 2 回
- ・活動の主な内容：  
本院の安全管理体制について、外の委員も含めた委員で監査・評価を実施する。
- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無 (  有 · 無 )
- ・委員名簿の公表の有無 (  有 · 無 )
- ・委員の選定理由の公表の有無 (  有 · 無 )
- ・公表の方法：  
大学ホームページ

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）					
氏名	所属	委員長 （○を付す）	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
小島 崇宏	大阪 A & M 法律事務所	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・無	1
津田 紘	なし		医療を受ける者	有・無	2
大磯 義一郎	浜松医科大学 医学部法学		法律に関する識見を有する者	有・無	1
				有・無	
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況 ※

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年266件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年59件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
- ・各事例に応じ医療管理室、カンファレンス、他職種カンファレンス（M&Mカンファ）、部署内検証の結果をもとに、事例の検証を行い再発防止策の立案を行っている。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有）（病院名：宮崎大学医学部附属病院）・無
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有）（病院名：信州大学医学部附属病院）・無
- ・技術的助言の実施状況
  - 11月27日 宮崎大学への相互チェックを実施予定
  - 11月13日 信州大学からの相互チェックを受ける予定

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況
<p>・体制の確保状況</p> <p>医療安全患者相談窓口の設置 → 医療安全管理室</p> <p>責任者：医療安全管理室長</p> <p>ゼネラルリスクマネージャー（GRM）及び 医事課医療安全推進係長</p>
⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況
<p>・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</p> <p>・窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</p> <p>・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）</p>
⑭ 職員研修の実施状況
<p>・研修の実施状況</p> <p>講習会 3 回（全職員対象）</p> <p>医療安全管理及び感染対策に係る新任者研修 1 8 回（中途採用職員対象）</p> <p>研修医ガイダンス 1 回（医療事故・安全対策について）</p> <p>新採用者オリエンテーション 3 回（事故防止に関すること等）</p> <p>看護助手研修 1 回</p>
⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況
<p>・研修の実施状況</p> <p>医薬品安全管理責任者：静岡県病院協会「医療安全推進研修会」、日本薬剤師会「病院診療所薬剤師研修会」にて研修を実施した。</p> <p>国立大学附属病院長会議で検討中のため、その結果をもって実施予定</p>

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人 日本医療機能評価機構 平成26年3月4日(火)5日(水) 検査部:公益財団法人 日本適合性認定協会 平成29年9月6日(水)7日(木)	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・情報発信の方法、内容等の概要 (1) 広報誌による情報発信 ① 病院案内 (年1回) ② 「はんだ山の風」 (年4回) ③ 医療福祉支援センター広報誌「かけはし」 (年4回) を発行し、県内・外に配信している。 (2) 公開講座による情報発信 ① 浜松医科大学と静岡新聞社・静岡放送が主催する「浜松医科大学公開講座(市民講座)」 (H29.4~H30.3(全7回)) ② 浜松医科大学主催「公開講座」(H29.11) ③ 浜松医科大学と静岡肝疾患診療連携拠点病院主催で「市民公開講座」(H29.4~H30.3 (年3回)) を実施している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 (1) 緩和ケアチーム、褥瘡対策チーム、呼吸ケアサポートチーム、NSTチーム、感染対策室、医療安全管理室、肝疾患連携相談室等多職種が参加した診療・ケアが実践されている。 (2) 放射線科が乳腺外科合同カンファレンス、心臓MRIカンファレンス、肝・胆・膵合同カンファレンス、脳神経外科カンファレンス及び耳鼻咽喉科カンファレンスと画像診断検討会を実施している。	

(様式第8)

浜医大医 第 4 号  
平成29年9月28日

厚生労働大臣 殿

国立大学法人浜松医科大学  
開設者名 (印)  
学長 今 野 弘 之

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

国立大学附属病院長会議が実施する研修（今後検討予定）として開催すれば、参加させる予定である。

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（1）名、専任（3）名、兼任（13）名  
うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（5）名  
うち薬剤師：専従（ ）名、専任（1）名、兼任（ ）名  
うち看護師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（5）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

看護師1名は専従職員として配置済。  
5割以上従事する者として、医師2名、薬剤師1名を配置済。  
今後の医師、薬剤師の専従職員の配置については検討中。